

三重大学 国際交流 年報 2021

Annual Report 2021
International Activities of
Mie University

第8号(通巻第22号)

Vol. 8

Contents

- I. 三重大学における国際化および国際交流
- II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動
- III. 国際交流センターの活動
- IV. 留学生支援・海外留学支援・地域国際化支援
- V. 資料



大学の基本的な目標

三重の力を世界へ

地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す。

～人と自然の調和・共生の中で～

基本理念(国際化)

三重大学は、国際交流・国際協力の拡大と活性化を図るとともに
国際的な課題の解決に貢献できる人材を養成し、大学の国際化を目指す。



目次

Contents

巻頭言 副学長（国際交流担当）・国際交流センター長

2021年度三重大学国際交流年報の発刊にあたり 01

I. 三重大学における国際化および国際交流

1. 三重大学の国際化に関する目標および達成のための措置	03
(1) 海外大学との交流の実質化	03
(2) 大学と地域のグローバル化推進	03
(3) グローバル化に向けての地域社会と大学との協働	03
2. 協定大学との主な国際交流活動	04
(1) Tri-U 国際ジョイントセミナー&シンポジウム	04
(2) コンセクティブディグリー・プログラム（天津師範大学・中国）	04
(3) ダブルディグリープログラム（スリウィジャヤ大学, パジャジャラン大学・インドネシア）	04
3. 国際交流事業の経費助成	05
(1) 三重大学国際交流事業経費助成制度	05
(2) 外国人教員短期招へいプログラムによる受入れ	05
(3) 外国人研究者受入れ	06

II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

1. 教養教育院	07
(1) シェフィールド大学ELTCオンライン研修	07
2. 人文学部・人文社会科学研究科	08
(1) 事業概要	08
(2) 事業実施結果	08
(3) 事業の意義	09
3. 教育学部・教育学研究科	11
(1) ニュージーランド・オークランド大学教育福祉学部との連携による海外教育研修	11
(2) ホーチミン市師範大学と連携した科学教育研修の実施	11
(3) 学部授業「日本語・日本事情Ⅰ」「日本語日本事情Ⅱ」でのオンライン国際交流会	12
(4) 学部「日本語教授法」における取り組み	12
(5) 東紀州サテライト東紀州教育学舎による尾鷲市立賀田小学校と台湾の小学校との国際交流支援	13
4. 医学部・医学系研究科	13
(1) 外国人留学生の受け入れ	13
(2) 外国人看護師の三重大学医学部附属病院での常勤開始	13
(3) 海外の研究者との共同研究	13
(4) 国立大学病院長会議委員会国際化協議会担当者会議の参加	14
(5) 「国際保健と地域医療」の連続講義開催（堀 浩樹先生 医学医療教育学）	14
(6) 国際医療支援センターによるコロナウイルスの国際情勢講演会開催	15
(7) 国際医療支援センター HP 一部変更	15
(8) 学会の活動	15
(9) ポルトガル語とスペイン語による入院案内動画のデジタルサイネージ表示化	16

(10) 医学系研究科看護学専攻シラバス英語化による国際化推進事業	16
(11) ウクライナ情勢に関する意見交換	16
(12) 海外臨床実習医学部生の交換	16
(13) 2020年度三重大学看護学科の国際交流（派遣）	16
5. 工学部・工学研究科	17
(1) ベトナム・ハノイ工科大学と三重大学工学研究科とのツイニング・プログラムの実施	17
(2) 国際交流事業「学生の国際化意識向上を目的とする外国人教員による英語授業」（担当：丸山直樹 准教授）	18
(3) 7研究領域「オンライン国際シンポジウム」の開催	19
(4) オンライン「海外短期インターンシップ」の開催	20
(5) JICA 課題別研修「日本型工学教育を活用した高度産業人材育成」の開催	20
6. 生物資源学部・生物資源学研究科	21
(1) 各種JICA教育プログラムの実施	21
(2) マレーシア・トレンガヌ大学とのオンライン活動	21
(3) 留学生の力を活かした国際交流	21
(4) 2021年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」	22
7. 地域イノベーション学研究科	23
(1) WHOアジア太平洋環境保健センター（WHOACE）所長就任	23
(2) 国連気候変動枠組条約第26回締約国会議（COP26）への参加と活動	24
(3) 第13回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ（IWRIS2021）	25

III. 国際交流センターの活動

1. 留学生受け入れプログラム	26
(1) 国際交流センター所属の短期留学生コース	26
(2) 日本語・日本文化研修留学生（日研生）コース	26
2. 国際教育活動の概略	26
A. 日本語・日本文化教育プログラム	28
(1) 日本語研修（初級）集中コース	28
(2) 一般日本語教育科目コース	28
(3) 選択科目：日本語教育・日本文化教育	29
(4) 市民開放授業	29
(5) 日本語補修講座およびサバイバル日本語講座	29
(6) 協定校への日本語オンライン授業サービス	30
(7) 日本語日本文化研修生（2020年度生）中間・最終発表会	30
(8) 日本語レベル判定試験（一般日本語コース，オンライン授業サービス，市民開放授業）	30
(9) その他	30
B. 国際キャリアアッププログラム	30
(1) 英語による授業（教養教育開放授業）	30
(2) 2021年度 海外短期研修プログラム（国際交流センター実施プログラム）	31
C. その他国際教育活動	31
(1) 外国人留学生インターンシップ	31
(2) eラーニングツール・英語プレゼンテーション動画	31

3. 三重大学国際教育交流活動	32
(1) 国際交流基金助成事業「海外協定校の参加学生によるZoomディスカッションから学ぶ 日本語と異文化理解（「日本語ディスカッション）」	32
(2) 国際先端セミナー	32
(3) 「Let's become a global citizen!」(4回シリーズ)	32
(4) 国際交流DAYS	33

IV. 留学生支援・海外留学支援・地域国際化支援

1. 留学生支援	35
(1) 在留資格認定証明書代理申請	35
(2) 留学生ガイダンスの実施	35
(3) 私費外国人留学生優遇制度 ※新規採用は2018年度をもって終了	35
(4) 私費外国人特待留学制度	35
(5) 奨学金に関する支援	35
(6) 留学生への就職支援	36
(7) 三重地域留学生交流推進会議の開催	36
(8) 日本人レジデントアシスタント (RA)	36
(9) 留学生会	36
(10) チューター制度	36
(11) 留学生住宅総合補償（機関保証制度）	36
2. 海外留学支援	37
(1) 交換留学生の授業料免除制度	37
(2) 交換留学・オンライン留学に関する説明会	37
(3) 官民協働留学支援制度「～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～」第14期採択結果	37
(4) 奨学金に関する支援	37
3. 地域の国際化支援	38
(1) 留学生の地域派遣	38

V. 資料

1. 海外大学等との協定締結機関地図	40
2. 学術交流協定大学一覧	42
3. 2021年度 国籍別・学部別外国人留学生数	45
4. 三重大学生の海外派遣	46
(1) 交換留学による派遣	46
(2) トビタテ！留学JAPANによる派遣	46
(3) 海外短期派遣実施プログラム	47
5. 国際的な学術交流活動・教育活動に関する教職員の研究・教育業績	48
6. 歴代国際交流センター長一覧	52



2021 年度三重大学国際交流年報の発刊にあたり

2021年度国際交流年報の発刊にあたり、国際交流担当特命副学長としてご挨拶を申し上げます。2020年度で吉松隆夫前副学長が退任され、2021年度より私、金子が国際交流担当の特命副学長に就任いたしました。地域創生大学としての三重大学の役割が、国際面においても十二分に発揮できるように知恵を出し、汗を流し、皆様と共に取り組んでゆきたいと思っていますのでご協力とご支援を宜しくお願いいたします。

2021年度が国立大学の第三期中期目標中期計画期間の最終年となりました。2022年度から国立大学の第四期期間が始まります。2020年と2021年は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）で、世の中が大変なことになった二年間でした。今なお世界中で新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっておりますが、2022年4月からは、これまで受け入れを停止していた協定大学からの交換留学生（特別聴講学生と特別研究学生）を受け入れることになりました。日本政府も、2022年4月から新型コロナウイルスの水際対策を緩和し、これまで三重大学に来れず、オンラインで講義を受講していた留学生も、徐々に三重大学に来れるようになると思います。また、海外大学への三重大学からの派遣も、これまでほとんど行けませんでした。徐々にそのハードルが緩和され、2022年度は三重大学の学生も徐々に留学ができるようになると思います。第四期において、留学生の受け入れと三重大学生の派遣等の国際交流を、第三期以上に活発にしていきたいと考えております。

三重大学の関係者以外の方で、何らかの形で本年報を手取る機会を得て、今回初めて目を通された方もあろうかと思えます。三重大学の国際交流の取り組みやその内容、成果について、ご意見やご要望、ご質問あるいはご批判、なんでも結構ですので何かございましたら三重大学国際交流チームの編集部のほうに是非ご連絡いただけましたらと思います。より実り多い三重大学の国際交流活動となるように皆様のご意見を活かしてゆきたいと思えます。最後になりましたが、寄稿していただきました皆さん、本年報の編集担当者に感謝申し上げます。



金子 聡

国際交流担当特命副学長
国際交流センター長



三重大学における国際化および国際交流

1. 三重大学の国際化に関する目標および達成のための措置

(第三期中期目標・中期計画 (2016年度～2021年度))

(1) 海外大学との交流の実質化

(目標)

世界で活躍できるグローバル人材を育成し、国際教育・国際共同研究を充実させるために、地域社会や世界各国の大学との交流活動を活発化させ、海外の大学等との学生と研究者の相互交流を増加させる。

(措置)

- ① 世界で活躍できるグローバル人材を育成するために、在学中に海外留学や国際会議などで海外へ派遣するための海外渡航支援制度や、ダブルディグリープログラムをはじめとしたアジアを中心とする海外からの留学生受入れプログラムを見直し、海外渡航学生数については入学定員の20%とし、受入留学生数については第2期の平均に比べ10%増加させる。
- ② 国際教育・国際共同研究を充実させるため、英語による論文作成や研究発表のための教育プログラムを実施し、国際シンポジウム・セミナーなどを継続して開催することにより、在学中に英語による論文作成や研究発表などを経験した学生数を入学定員の30%まで増加させる。
- ③ 国際的に評価されるすぐれた研究成果を創出するため、また、学内や地域で国際講演会、国際シンポジウムを開催し、地域のグローバル化を推進するため、海外からの研究者招へい制度を構築し海外からの研究者の受入人数を第2期の平均に比べ5%増加させる。

(2) 大学と地域のグローバル化推進

(目標)

国際交流活動により、多様な考え方を理解できる人材を育成し、国際的な連携研究を促進させ、新規研究課題を発見・解決するために、海外の大学との戦略的なパートナーシップを構築する。

(措置)

地域社会からの要望の強い国・地域にある海外の大学との戦略的なパートナーシップを構築するため、国際戦略本部会議を中心に、国際的な教育・研究活動、国際交流事業、附属病院での国際的医療活動などに対して明確な意思を持った方針・戦略を策定する。

(3) グローバル化に向けての地域社会と大学との協働

(目標)

地域の国際化を支援するため、シンクタンク機能とグローバル人材供給機能を持つ大学への転換を図る。

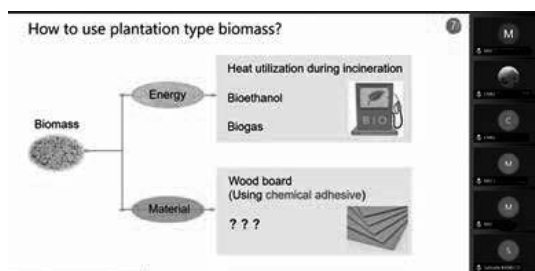
(措置)

地域の国際化を支援するため、三重県下の自治体、企業、地域社会などとの協力を強化し、産業界に必要とする人材や情報などについて、ホームページやデータベース機能などによりデータの共有化を推進するとともに、地域社会と大学の共通した課題に必要な人材育成などの協働を効果的に行える制度を構築する。

2. 協定大学との主な国際交流活動

(1) Tri-U 国際ジョイントセミナー&シンポジウム

Tri-U国際ジョイント&シンポジウムは、三重大学（日本）、チェンマイ大学（タイ）、江蘇大学（中国）、IPB大学（インドネシア）、廣西大学（中国）の5大学が交代でホスト校を務め、毎年開催される研究論文発表を中心とした国際交流プログラムである。2021年度（第27回大会）は、廣西大学にて10月31日（日）～11月5日（金）の日程でハイブリッド形式で開催され、6カ国12大学から学生・教職員120名が参加した（本学からは学生8名、教員5名の計13名がオンラインで参加）。本シンポジウム内では、「人口」、「食料」、「エネルギー」、「環境」、「Smart City：Is it just a dream?（開催校が設定）」をテーマに、口頭発表やワークショップが行われた。



口頭発表の様子



ワークショップの様子

(2) コンセクティブディグリー・プログラム（天津師範大学・中国）

三重大学と天津師範大学は、「三重大学と天津師範大学との学術協力・交流に関する一般協定」（2014年11月18日締結）に基づき、共同でコンセクティブディグリー・プログラムを実施している。コンセクティブディグリー・プログラムとは、天津師範大学国際教育交流学院に在籍し、三重大学との間における、日本語コース共同教育プログラムに参加している天津師範大学の学生が、三重大学大学院に進学を希望する際に、専門分野や指導教員等のマッチング及び各種情報提供の機会を設ける等、三重大学大学院に進学するための支援を行うプログラムである。2021年春入学の同プログラム第3期生18名については、新型コロナウイルス感染症の影響により来日が実現しなかったが、オンラインで国際交流センターや教育学部などが提供する講義を受講した。

(3) ダブルディグリープログラム（スリウィジャヤ大学、バジャジャラン大学・インドネシア）

ダブルディグリープログラムとは、博士前期課程1年次はインドネシアにおいて、2年次は日本において講義受講と研究を実施し、それぞれの研究科が行う修士論文の審査及び最終試験に合格すると三重大学とインドネシアの大学からの2つの修士の学位が授与される制度である。2008年に生物資源学研究科とスリウィジャヤ大学がダブルディグリープログラムに関する協定を結んだ。その後、2012年にバジャジャラン大学とも協定が結ばれた。2021年度はスリウィジャヤ大学ダブルディグリープログラム学生1名が在籍している。入国制限のため対面での研究指導ができない状況であるが、オンラインで指導を受けつつ、渡日を待っている。

3. 国際交流事業の経費助成

(1) 三重大学国際交流事業経費助成制度

国際交流推進経費より、国際交流の取り組みに対し1部局あたり50万円、計13件の助成を行った。助成対象案件は以下のとおり。

2021年度 三重大学国際交流事業経費助成申請一覧

	部局名	申請代表者	事業名（申請時の名称）	対象国	時期
1	教養教育院	サコラヴスキー ジェシー	英語特別プログラム シェフィールド大学ELTCオンライン研修	連合王国	3/14～3/18
2	人文学部	吉田 悦子	2021年度春期海外オンライン研修（ニュージーランド・マッセイ大学）	ニュージーランド	2/21～2/23
3	教育学部	後藤太郎	オークランド大学教育学部との連携による海外教育研修の実施	ニュージーランド	2/28～3/11
4	医学系研究科	成島 三長	医学系研究科看護学専攻シラバス英語化による国際化推進事業		3月
5	工学研究科	丸山 直樹	学生の国際化意識向上を目的とする外国人教員による英語授業	タイ, マレーシア	5月～7月 10月～1月
	工学研究科	池浦 良淳	ベトナム・ハノイ工科大学と三重大学工学研究科とのツィニング・プログラムの実施（継続令和3年度）	ベトナム	8月～3月頃
	工学研究科	池浦 良淳	7研究領域国際シンポジウムの開催と国際化教育プログラムの推進	ドイツ, マレーシア, バングラデシュ, アメリカ, インドネシア	9/28-29, 11/17, 11/24, 12/1-2
6	生物資源学研究科	中島 千晴	留学生の力を活かした留学フェアと地域貢献活動	インドネシア	2月頃
7	地域イノベーション学研究科	小林 一成	第13回地域イノベーション学に関する国際ワークショップの開催と交流事業	台湾, 韓国, 中国, カンボジア, タイ, フィリピン	10/21
8	国際交流センター	栗田 聡子	コロナ禍におけるオンライン海外研修の参加費用に対する助成	オーストラリア, 韓国, 台湾	5月～1月頃
	国際交流センター	松岡知津子	三重大学海外フィールドスタディ2021	ベトナム	3/7～3/11
	国際交流センター	福岡 昌子	海外協定校の参加学生によるZoomディスカッションから学ぶ日本語と異文化理解	協定校 (ドイツ, ベトナム, タイ, 台湾, 中国)	11/10～2/9
	国際交流センター	栗田 聡子	オンラインによるIELTS集中講座開催に対する助成		2/15～2/18

(2) 外国人教員短期招へいプログラムによる受入れ

三重大学の教育環境の国際化を図るとともに、教育活動の一層の進展に寄与するため、これまで交流の実績を有する海外の教育・研究機関および将来的に協定締結を視野に入れている海外の教育・研究機関からの外国人教員の短期招へいを推進している。

短期招へい外国人教員の職務は、①受け入れ学部等における学生への教育及び学生への研究指導、②本学の国際化教育と国際化推進活動への助言及び支援、③部局専門領域での教育参加のほか、教養教育及び他部局での教育機会創出の奨励である。

2021年度の外国人教員短期招へいプログラムは以下のとおりであったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、すべて中止となった。

I. 三重大学における国際化および国際交流

2021年度外国人短期招へいプログラム一覧

	学部・研究科	受入れ教員	研究者氏名	所属大学	所属先の身分	受入期間	備考
1	医学系研究科	渡辺 隆	MARIA KUZNETSOVA	Research Institute of Fundamental and Clinical Immunology (RIFCI) (ロシア)	研究員	2021/7/1～2021/9/30	R3年度申請分
2	医学系研究科	渡辺 隆	VALERIY TERESHCHENKO	Research Institute of Fundamental and Clinical Immunology (RIFCI) (ロシア)	ジュニア研究員	2021/7/1～2021/9/30	R3年度申請分
3	教養教育院	サコラヴスキー ジェシー	ジョンストン・ヘレン	シェフィールド大学 (英国)	アカデミック・ディレクター	2021/9/9～2021/9/19 (R3年度に繰り越し)	R2年度申請分
4	医学系研究科	ガバザ エステバン	Isaac Cann	イリノイ州大学 (米国)	教授	2020/11月頃～2020/12月頃 (R3年度に繰り越し)	R2年度申請分
5	医学系研究科	成田 有吾 竹内佐智恵	Riyanto	インドラマユ大学 (インドネシア)	第3副校長	2020/11月頃～2020/12月頃 (R3年度に繰り越し)	R2年度申請分
6	教育学部	馬原 潤二	何鵬挙	北京理工大学 (中国)	副教授	2020/7/1～2020/8/31 (R3年度に繰り越し)	R2年度申請分
7	教育学部	後藤太郎	John Hope	オークランド大学 (ニュージーランド)	名誉教授	2020/10/7～2020/11/9 (R3年度に繰り越し)	R2年度申請分
8	工学研究科	金子 聡	Md. Nurul Amin	ダッカ大学 (バングラデシュ)	教授	2020/11/1～2020/11/30 (R3年度に繰り越し)	R2年度申請分
9	工学研究科	金子 聡	Md. Ashraful Islam Molla	ダッカ大学 (バングラデシュ)	准教授	2020/11/1～2020/11/30 (R3年度に繰り越し)	R2年度申請分
10	生物資源学研究科	筒井 直昭	Rajesh Prasad	ザ・サウス・パシフィック大学 (フィジー)	講師	2019/12/1～2020/1/31 (R3年度に繰り越し)	R元年度申請分

(3) 外国人研究者受入れ

学術研究の国際交流を推進するため、教員と共同して研究に従事する外国人研究者の本学への受入れに関し必要な事項を定めている。本学の外国人研究者として受け入れることのできる者は、

- ① 本学の教授、准教授、講師、助教又は助手と同等以上の資格があると認められる者。
- ② 原則として1カ月以上にわたり学部等で行う共同研究に貢献できる者。

外国人研究者は、あらかじめ定められた研究計画に従い共同研究に従事している。2021年度の受入は以下のとおり。

2021年度外国人研究者受入数

受入部局	人数	国籍内訳
医学系研究科	1	タイ (1名)



各学部・研究科等の主な国際交流活動

1. 教養教育院

(1) シェフィールド大学 ELTC オンライン研修

教養教育では2015年4月の新カリキュラムより英語特別プログラムを実施し、1年生を対象に、(i) 新教養教育カリキュラム理念であるグローバル化対応人材の育成を実現する、また、(ii) 英語力上級者のさらなる英語力を養成することを目指してきた。1年間の大学での授業の総仕上げとして、春休みにシェフィールド大学英語教育センターにて3週間の英語研修を実施し、年々、参加者も増加していたが、昨年度に続き今年度もコロナウイルス感染状況による渡航制限のため現地での語学研修を実施することはできなかった。しかし、1年間の成果を試し、異文化に触れる体験をする機会を提供し、今後への学びの動機づけを行うため、昨年度好評であった1週間のオンライン英語研修を実施した。

ELTC オンライン言語と文化プログラム 2022
<ul style="list-style-type: none"> ・実施日時: 2022年3月14日(月) - 2022年3月18日(金) 18:00-22:00 JST + 課外活動 ・提供者: シェフィールド大学(イギリス) 英語教育センター ・参加者: 計9名 (医学部5名;工学部1名;生物資源学部3名)

オンライン研修の概要

オンライン授業は以下の内容を含む。

- ・毎日の英語力育成クラスでは4技能の習得を図る。
- ・毎日の講義は、国際的な話題を扱い、「講義前準備→講義→講義後の議論」という過程で、受講生は受け身に情報を受け取るのではなく、積極的にリスニングとディスカッションの技能を組み合わせる機会を体験する。
- ・課外活動(会話クラブなど)に参加する機会や、シェフィールド大学生と交流の機会がある。
- ・様々な国、文化、経歴を持つ人々と少人数のグループで相互交流の機会をもつ。

授業スケジュールは以下のとおり。

オンライン授業について

Day & Time	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
18:00-19:00 JAPAN Time	Language development and lecture preparation	Language development and lecture preparation	Language development and lecture preparation	Language development and lecture preparation	Language development and lecture preparation
19:30-20:30 JAPAN Time	Andrew Burke Lecture Pioneers: British adventurers and scientists	Sarah Carratt Lecture The origins of British idioms	Sarah Carratt Lecture A history of pet ownership in Britain	Andrew Burke Lecture British wildlife	Andrew Burke Lecture Construction: important buildings and landmarks in the UK
21:00-22:00 JAPAN Time	Post-lecture task and discussion	Post-lecture task and discussion	Post-lecture task and discussion	Post-lecture task and discussion	Post-lecture task and discussion
23:00-24:00 JAPAN Time or On-demand	Self-study Communication skills lesson 1	Self-study Pronunciation lesson 1	Social activity	Self-study Communication skills lesson 2	Social activity

II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

オンライン授業の参加者アンケート

私は…に満足です	1 反対	2 どちらか 言えば反対	3 賛成でも 反対でもない	4 どちらか 言えば賛成	5 賛成	回答数	平均点
A. オンライン授業全体として				6	3	9	4.33
B. 英語力育成クラスと講義クラス準備時間				4	5	9	4.56
C. 講義				4	5	9	4.56
D. 講義後の課題と議論				5	4	9	4.44
E. 付加的な教材 (オンデマンド / 授業外で実施)		1	2	6		9	3.56
F. 課外活動 (参加した場合)			1	2	1	4	4.00

オンライン授業の参加者のコメント

1週間という短い期間ながら、特にオンライン受講であるために、話す能力について、他国の学生の態度から大いに刺激を受け、積極的な発言、話題の選び方など、実りある会話をするために必要な要素について学ぶものが多く、それを自分でも実践するに至った学生もおり、苦勞した学生も含め多くの学生が有意義な機会を得たことを喜んでいる。

2. 人文学部・人文社会科学研究科

人文学部では、2012年度から毎年夏季に英国オックスフォード大学ハートフォード・カレッジとの英語研修プログラムを実施しており、継続的に学生の派遣を行ってきた。しかし、コロナ禍で2020年度以降学生派遣は中止になり、今年度、これに代わるオンライン英語プログラムの実施が喫緊の課題であった。これまで人文学部とマッセイ大学との交流はなかったが、JTB三重、JTBオークランド、現地スタッフとの連携と、学部の全面的な協力により、3日間のオンライン英語研修プログラムを立ち上げ、学生募集をかけて、代替プログラムとして実施することになった。

(1) 事業概要

本事業は、英語運用能力の向上と現地学生交流を目的とし、三重大学人文学部の学生向けに設計されたオンライン海外研修プログラムである。マッセイ大学（ニュージーランド）の英語プログラムを基盤として、現地大学教員による経済学の講義とディスカッション、バーチャル企業訪問、現地学生とのフリートーク、異文化理解をテーマとしたプレゼンテーション、を含めている。また、学生が主体的・対話的な学習に取り組むことを促し、卒業要件であるインターンシップ条件（10時間以上）を満たす3日間のプログラムである。新型コロナウイルス感染症の影響で海外渡航の制限や企業のインターンシップ受け入れ制限がかかる中、英語の4技能を実践的に学ぶ機会を提供し、異文化理解の促進と国際感覚を併せ持つ人材の育成に大きく貢献できたと言えよう。学部として初めての試みであったが、学生からの事後アンケートからは、「英語学習の強い動機付けになった」「英語によるプレゼンテーションのスキルが身に付いた」「積極的に挑戦することの重要性を感じた」「海外の同世代の人との交流を通じて、他者とコミュニケーションをとる重要性を感じた」など国際的な視野の広がりや、異文化への適応力の高まりが認められ、今後も大きな成果を上げることが期待される。

(2) 事業実施結果

2021年12月7日に現地スタッフも参加して、参加学生募集の説明会をZoomで行った。参加者の中から、15名の学生（文化学科8名、法律経済学科7名）が応募し、登録手続きを行った。2022年2月18日に事前オリエンテーションをZoomにて実施し、参加者の自己紹介、プログラムのスケジュール、参加方法（Streamと呼ばれる現地大学のプラットフォーム）の紹介を行った。

II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

- ・1日目は、午前中の英語授業で、自己紹介、プログラムの説明、プレゼンテーションのグループ分けと午後の講義への準備、を行った。午後は経済についての現地教員による講義と質疑応答、グループワークを行った。Zoomのチャット機能やブレイクアウトを活用して、学生の積極的な授業参加と双方向性を重視したプログラムが展開された。
- ・2日目は午前中の英語授業でニュージーランドの文化紹介、続いてバーチャル企業訪問（Medical Collagen New Zealand Ltd.）が行われ、事業者から会社概要、商品説明、オフィス見学、その後活発な質疑応答が行われた。午後は、マッセイ大学の現地学生との交流会（現地学生5名が参加したグループでのフリートーク）、英語授業では、プレゼンテーションに向けた準備をグループ中心に行った。
- ・3日目は午前中にグループプレゼンテーションが行われた。3名1組の5グループが、それぞれのトピックで日本とNZの共通点や相違点について、順番に発表した。
発表に対しては、質疑応答と担当英語教員からの丁寧なフィードバックを受けた。終了後、フェアウェルセレモニーが行われ、先生方のスピーチに続いて、学生一人一人に修了証書が渡され、研修についてのコメントを語り合った。全体で記念撮影を行い、研修終了となった。

(3) 事業の意義

本プログラムは、参加学生にとって、実践的英語の修得に向けて大きな動機付けになっており、国際的視野を持つ人材育成、そして異文化コミュニケーション能力を促進させる国際教育の一環として、意義のある取り組みになった。

三重大学人文学部対象
春季海外研修ニュージーランド・マッセイ大学（オンライン）

このプログラムの特徴

- Point 1 インターンシップ卒業要件を満たすプログラム
- Point 2 世界上位の大学が提供するオリジナルプログラム
- Point 3 講義、バーチャル企業訪問を通してNZの社会、経済を学ぶ
- Point 4 ディスカッションやプレゼンを通して語学力・表現力を磨く

<スケジュール> ※プログラム内容が変更となる可能性があります。

日本時間	プログラム内容
2/21 (月)	09:00~09:30 フェルカムオリエンテーション
	09:30~11:00 プログラム導入
	13:00~14:30 大学講師からのレクチャー（NZの経済について）
	14:30~15:00 Q&Aセッション
2/22 (火)	09:00~10:00 英語クラス（企業訪問に向けての準備）
	10:00~11:00 バーチャル企業訪問
	13:00~14:00 英語クラス
	14:00~15:00 マッセイ大学学生との交流
2/23 (水)	09:00~10:30 プレゼンテーション
	ディスカッション&フィードバック
	10:30~11:00 フェアウェル

■プログラム期間 主催：三重大学人文学部
2022年2月21日（月）～2月23日（水）

■参加費用 1人@¥10,000
※三重大学国際交流事業経費及び人文学部からの補助が出ています。

■講義形式 オンライン（Zoom形式）

■募集期限 ～令和3年12月22日（水）まで

■最少催行人員 両方の研修で合わせて25名まで。25名を超えた場合は先着順となります。

■申込方法 Moodleにて提出
※説明会の出席希望者はMoodleの希望するコースに自己登録をすること。

春季海外研修プログラム

II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動



グループプレゼンテーション



マッセイ大学の現地学生との交流会

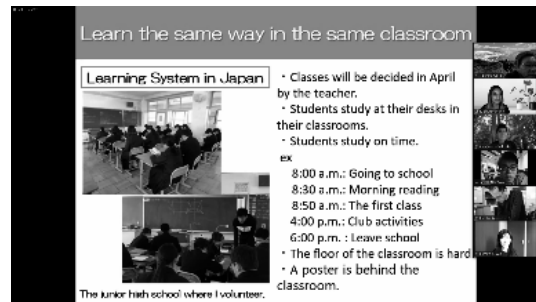
3. 教育学部・教育学研究科

(1) ニュージーランド・オークランド大学教育福祉学部との連携による海外教育研修

教育学部ではオークランド大学教育福祉学部との連携により、2011年度より短期研修を実施している。昨年度に引き続き、今年度も渡航できないことから、同学部で教員研修を担う Kohia Center の協力によりオンラインでプログラムを実施した。講義は2022年2月28日から3月11日までの10日間、毎回10時半から12時に行われた。参加学生は13名であり、教員も7名が参加した。ニュージーランドにおける教育制度、評価法、指導法、多文化教育などについて、理論と実践に基づく講義が行われ、学校の様子や、児童生徒、教師、学校長の動画によって、ニュージーランドの教育現場をリアルに感じる事ができた。プログラムの最終日に、学生はニュージーランドと日本の教育の比較教育について発表した。海外の教育を知ることで、教育課題について視野を拡大する機会となった。(後藤太一郎)



講座の様子



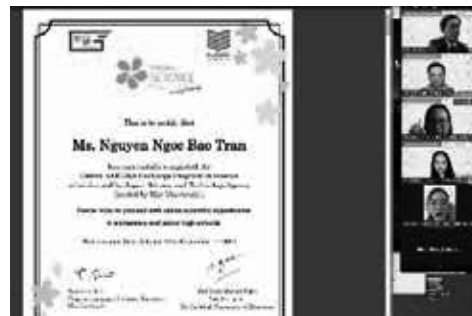
受講生の発表スライド

(2) ホーチミン市師範大学と連携した科学教育研修の実施

日本科学技術振興機構による「さくらサイエンスプラン (SSP)」の支援を受けて、三重大大学の協定校であるホーチミン市師範大学 (HCMUE) で高校理科教員を目指す学部生10名を対象とした科学教育プログラムを2015年度から実施している。2020年度はコロナの影響で中止となったが、2021年度はオンラインにより開催した。テーマを「小中学校におけるオンライン科学実験をどのように進めるか」としてプログラムを企画し、5回のセッションを10月20日から11月17日までの毎週水曜日10時から12時まで(日本時間)実施した。参加者は、このプログラム参加に選考された10名の学生、および、これまでに招へいたホーチミン市師範大学の教員や学生約30名で、三重大大学からは教育学部教員8名が参加した。最終日には10名の学生の発表と、修了書の授与が行われた。双方の努力によって、理科教育に関する交流を深める新たなスタイルができたことを参加者全員が共有するものとなった。なお、詳細はSSPのHP (https://ssp.jst.go.jp/report2021/k_vol005.html) に掲載されている。



参加者の発表スライド



修了書の授与

II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

(3) 学部授業「日本語・日本事情Ⅰ」「日本語日本事情Ⅱ」でのオンライン国際交流会

教育学部・学部共通開講科目「日本語・日本事情」は留学生が日本および日本事情を学ぶ科目として開講されている。本科目は、前期2回、後期3回、授業内で留学生と日本人学生のオンライン国際交流会を実施した。

1) 「日本語・日本事情Ⅰ（前期）」

授業参加者や授業内容等は次のとおりである。

参加者：留学生17名（中国）、教育学部日本人学生1名

内 容：教育学部学生による三重県および教育学部の紹介

実施日：2021年5月13日、7月19日

「日本語・日本事情Ⅰ（前期）」は、教育学部の日本人学生が三重県および教育学部での生活について紹介した。質問や交流の時間では、楽しく活発に語り合う姿が見られた。留学生からは、新型コロナウイルスの感染状況により渡日が困難ではあるが、三重大学の様子が分かってよかったことや同世代の日本人学生との交流が有意義だったという声が多く寄せられた。

2) 「日本語日本事情Ⅱ（後期）」

授業参加者や授業内容等は次のとおりである。

参加者：留学生13名（中国12、ブラジル1）

教育学研究科日本人学生1名、教育学部日本人学生3名

内 容：

①留学生によるインタビュー活動

実施日：2021年11月1日

②教育学研究科学生による三重県および教育学研究科の紹介

実施日：2021年11月15日、11月22日

「日本語日本事情Ⅱ（後期）」では、上記の通り、2つの活動を実施した。

インタビューでは、活動前の2回分の授業（10月18日、10月25日）を準備に充てた。留学生は3つのグループに分かれ、各グループで日本人学生に聞きたいことを話し合った。実施当日は、Zoomのブレイクアウトルーム機能を用いてグループごとに日本人学生1名に質問し、これを3回行った。活動では、留学生が事前に準備した質問だけでなく、ディスカッションや交流に発展する様子が見られた。

教育学研究科の大学院生による三重県および大学院での生活についての紹介では、大学院進学を計画している留学生も多く、積極的に質問や意見が交わされた。

どちらの活動においても留学生、日本人学生の双方から相互交流の楽しさと異文化および自国への学びが深まったとの声が聞かれた。

(4) 学部「日本語教授法」における取り組み

授業参加者や授業内容等は次のとおりである。

参加者：教育学部日本人学生3名

内 容：オンラインによる海外ゲストとの交流

実施日：2022年1月11日

教育学部「日本語教授法（学部）」は、教科及び教科の指導法に関する科目として、日本語教育に関する内容とその教授法について広く取り上げている。

日本語教育は国内のみならず海外でも行われており、海外との往来が困難な中ではあるが、海外の日本語事情にも触れておく必要があることから、昨年度に引き続き、海外の専門家から話を聞く機会を設けた。

今年度は時差が少なく新型コロナウイルスの状況等も比較的落ち着いている台湾と三重大学内の教室をオンラインでつなぎ、台湾の文藻外語大学日本語文系で日本語教育に関わられている佐藤圭司先生をゲストにお招きして「台湾の今」と題した、現地の日本語教育事情について話を聞いた。参加学生はみな積極的に質問・意見を述べ、海外日本語教育事情についての理解と知識を深める姿勢がみられた。

(5) 東紀州サテライト東紀州教育学舎による尾鷲市立賀田小学校と台湾の小学校との国際交流支援

東紀州サテライト東紀州教育学舎は、尾鷲市教育委員会との共同研究で、大野恵理准教授が中心に尾鷲市立賀田小学校における英語教育を支援している。3年目となる本年度は、「子どもたちに「英語が通じた!」という実感をしてもらいたい」という要請を受け、ICTを活用した国際交流の授業を行った。

賀田小学校がインターネットを通じた国際交流を進めたのは、台湾の興達国民小学（興達小学校）だった。この交流先を探すのに、教育学部服部明子准教授が三重県庁や日本台湾交流協会高雄事務局と連絡を取り、高雄市教育委員会を通して興達国民小学との交流が実現した。

賀田小と興達小をインターネットでつないで何度も打合せを行い、ICT機器やネット回線速度の問題はあったが、それをクリアし、2度の交流授業を実施した。1度目の交流では、全体でゲームをして、クリスマスソングを英語で一緒に歌った。2度目は、児童各自が「ふるさと紹介」の紙芝居やスライドを作成し、各自が発表した。事後アンケートでは、多くの児童が「相手の英語が分かった!」と実感したと回答し、多くの関係者の力を結集し、児童にとって貴重な体験を実現することができた。

4. 医学部・医学系研究科

医学部では、国際通用性のある能力を持って地域に貢献する医師、グローバル社会に共通する医療課題の解決に取り組む医学研究者の養成を目的に、専門英語教育、海外での体験的学習機会の提供、学内教育環境の国際化に取り組んでいる。外国人教員、国費外国人留学生優先配置制度で留学中の外国人医師で構成される教員チームによる英語教育やICTを活用した海外研究者による最先端研究に関する講義、海外からの短期招へい研究者による講演会などを実施している。ただ今年度はコロナウイルスのさらなる拡大のため医学部および附属病院を通じて海外渡航が中止された影響で実際の交流は低調である。しかしwebを通じたネットワークの構築が徐々に進み、ポストコロナに根差した新しい交流の形が生まれつつある。また医学教育の国際標準化を目指して世界医学教育連盟の基準による医学教育分野別認証評価制度が開始されており、本学も教育カリキュラムや評価システムの検証し認定を受けた。

(1) 外国人留学生の受け入れ

国費外国人留学生優先配置での入学予定者で、昨年度コロナウイルスの影響で来日できなかったザンビア人留学生2名（循環器内科・肝胆膵外科）が2022年3月末に来日することができた。来日できない間は、ザンビアにおいてwebで日本語の授業を受け日本語のトレーニング期間を得ることができた。

(2) 外国人看護師の三重大学医学部附属病院での常勤開始

日本の看護師免許取得したザンビア出身者男性が三重大学医学部附属病院の手術部看護師として勤務を開始した。日本語も堪能であり問題なく手術業務に当たっている。現在日本はベトナムなどから外国人技能実習生を受け入れており今後他国からの医療従事者が増えていく可能性があり、その一人目として今後の後進への目標となっていくと考える。

(3) 海外の研究者との共同研究

形成外科において、国際共同研究としてアフリカにおける熱傷の受傷状況および顕微鏡下手術の施行状況について調査を行い、論文を投稿した。

II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

(4) 国立大学病院長会議委員会国際化協議会担当者会議の参加

上記会議に2022年2月10日にオンラインで伊佐地病院長・国際医療支援センター長（成島）が、参加した。三重大学医学部からは、人材、技術、システムのアウトバウンドに関わる提言について他の先進国における医療への戦略の詳細を検討し、日本としての今後の海外展開の戦略について調査を行った。その結果、他の先進国はアフリカなどの発展途上国への支援の一環として多くの有能な人材を見出し、競って母国で教育・技術提供をすることでこれらの国々との結びつきを深めている。2030年には、19歳～24歳の世界人口の4分の1がアフリカ人になると予測され、若年層の人口増加が唯一見込まれるアフリカ人は、世界全体の留学生の約10%である。アフリカへの各国の留学生獲得のための援助戦略を調査し、日本の国立大学病院としての海外展開への戦略について検討した。1位はフランスで約10万人（2016）世界最大の留学生受け入れ国。45%がアフリカからの留学生。すべての国立大学で学費はほぼ無償。フランス政府留学局はアフリカ30か国に地域事務所を設置。インターネットを通じた情報発信や広報活動も積極的。政府奨学金15,000人分をアフリカ人へ優先的に配分。卒業後6か月就職活動のためにフランス滞在が可能。主な国はモロッコ・アルジェリア・チェンジア。

2位は中国で約8万人（2018）「一帯一路」政策により、アフリカの37カ国と政府間協定を結び、5万人のアフリカ人留学生に政府奨学金を提供。孔子学院など様々な奨学金プロジェクトがあり受給しやすい。オンライン申請が一般的で大学入学申請と同じシステムを利用。定住化には消極的。母国の中国企業での就業を期待。国家対外漢語教育弁公室を設立、教員免許の整備・教材開発オンライン教育サービスで中国語教育を進める。医学分野は言語学に次いで多い（10%）。主な国はガーナ・ナイジェリア・エチオピア。

日本は約0.22万人（2017）でアジアからが93.3%を占めており、アフリカは少ない（総留学生の0.8%）。しかし大学院では地域別1位（図）。産業人材育成イニシアティブはアフリカから5年1,000人の大学院での教育とインターンシップ機会の提供を目標。高い技術力、文化への関心、治安の良さ、教育環境が利点。海外青年協力隊との交流もきっかけ。他国への留学も検討した学生が多く他の国に比べて留学斡旋が少ない状況。奨学金プログラムへの情報収集の難しさと申請の手続きの煩雑さが課題であることがわかった。主な国はエジプト・ケニア・ナイジェリア。これらを将来像実現化年次報告2021/行動計画2022に報告した。

2021年度	大学生	大学院生	アフリカ留学生	学生全体	国費	医歯合計	医歯私費	医歯国費	
アジア	81842	7	2019	大学	362	72	2	1	0
中東	282	32		大学院	41	14	0	0	0
アフリカ	360	33	2020	大学	368	54	2	1	0
ヨーロッパ	1861	13		大学院	34	13	0	0	0
北米	809	0	2021	大学	360	36	2	1	0
中南米	1436	15		大学院	33	18	1	0	1
オセアニア	184	19							
合計	86774	119							

(E-stat 学校基本調査 国籍・地域別関係学科別および専攻分野別外国人学生数よりデータ取得)

(5) 「国際保健と地域医療」の連続講義開催（堀 浩樹先生 医学医療教育学）

Zoomを用いて国際保健と地域医療にかかわる講義全15回を行った。

■対象学生

- 医学科1年生（必須科目） 125名
- 他学部生、看護学科生 とともに1名程度
- 国際交流センターの留学生（天津師範大学）7名
- 高大連携事業の高校生5名

■講義全15回 内容一部抜粋

- ・堀 浩樹（三重大学大学院医学医療教育学教授）Think globally, Act locally
- ・水谷 真由美（三重大学大学院広域看護学領域（地域看護学）准教授）農村地域の強みを活かした国際地域看護活動
- ・久留宮 隆（国境なき医師団・日本 会長）私にとっての医療 - 国際医療協力の経験から

II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

- ・ 櫻井 洋至（三重大学大学院医学系研究科 医学医療教育学准教授／肝胆膵・移植外科） Differences in surgical care situation between the partnership countries of Mie University
- ・ 成島 三長（三重大学大学院形成外科学教授・国際医療支援センター長）三重の産業を支える外国籍住民の医療と未来
- ・ Chihena Banda（Clinical Fellow and PhD Student）ザンビア人医師から見る日本の国際医療貢献
- ・ 谷村 晋（三重大学大学院地域看護学教授）顧みられない熱帯病（NTD）

(6) 国際医療支援センターによるコロナウイルスの国際情勢講演会開催

国境なき医師団日本の会長に就任された三重大学医学部出身の久留宮隆先生をお招きし、2021年7月1日（木）18:00-19:30に「国際医療援助活動における人道主義」としてご講演いただいた。約200名が参加され、前センター長の笠井先生からミャンマーでのクーデター下でのコロナの状況について、およびトルコから参加の渡辺さんからトルコでのロックダウンの状況についても報告があり、より世界的なコロナの状況の一端を理解できる会となった。



(7) 国際医療支援センター HP 一部変更

初代センター長の笠井先生によるホームページを改修し、診療についてと研修についての二本柱についてわかりやすいホームページを昨年度改修した。本年度はさらに、英語部分の追加修正および入院案内文章をコロナ対応バージョンへ変更した、このサイトを見てメールにての問い合わせが5件程度海外よりあったが、いずれも大学院および病院研修に関する医療者からであった。



(8) 学会の活動

国際臨床医学会では、医療通訳者制度や国際臨床研究における認証などの制度化を進めており、これに関する公式および非公式な会合を月一回程度参加し、国際協力および日本での国際化を進めた。東海形成外科学会において、イタリアのInocenti先生およびイギリスのGio先生にそれぞれRobotic microsurgeryについてのご講演をwebにてしていただいた。また2022年2月5日熱傷学会東海地方会において、ザンビアの熱傷の現状と課題を形成外科留学生のBanda先生に、またポルトガルの熱傷治療の現状について Department of Plastic reconstructive and Burn Unit of Hospital de São João, PortugalのPaula Egipto先生にご講演をwebでしていただいた。

II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

(9) ポルトガル語とスペイン語による入院案内動画のデジタルサイネージ表示化

医療通訳士のワキモトさんマリアさんのご協力のもと、わかりやすい初診のかかり方に関する動画を昨年作成し大学病院youtubeチャンネルおよびホームページで公開したが、より多くの人がかかるよう病院内にデジタルサイネージを12台設置し常時動画が流れる状態にした。



(10) 医学系研究科看護学専攻シラバス英語化による国際化推進事業

「三重大学のグローバル化戦略」として大学院の授業シラバス（博士課程生命医科学専攻・修士課程医科学専攻：2講座64教育研究分野，看護学専攻博士前期課程：3教育研究領域10専門分野，看護学専攻博士後期課程：6教育研究分野）の100%英語化を掲げている。昨年度実施した医学系研究科博士課程シラバスに引き続き，医学系研究科看護学専攻シラバスの英語化によって更なる国際化推進を目指すため，シラバスを英語訳化した。これにより全研究室の英語化が終了したため，来年度HPへの実装化を進める予定である。

(11) ウクライナ情勢に関する意見交換

ロシアによるウクライナ侵攻のため，多くのウクライナの方が他国へ避難しておりその数は数百万人に上っている。このウクライナの方々へ何らかの支援が医学部および病院として行えないか，三重県や三重国際交流財団および国境なき医師団と意見交換を行い，今後の支援について検討した。

(12) 海外臨床実習医学部生の交換

2020年度は，三重大学国際交流推進経費の助成を受けて，海外臨床実習，早期海外体験実習，海外交換学生の本学への受入れを実施する予定であったが，コロナウイルス感染拡大の影響によりすべて中止となった。

(13) 2020年度三重大学看護学科の国際交流（派遣）

医学部看護学科（大学院医学系研究科看護学専攻）ドイツ および タイ提携校との相互交流促進事業についてはコロナウイルス感染拡大に伴い中止している。

5. 工学部・工学研究科

(1) ベトナム・ハノイ工科大学と三重大学工学研究科とのツィニング・プログラムの実施

①大学フェスタ (2021.8.23～27, 主な担当：中西栄徳 准教授)

機械工学コース及び専攻所属のベトナム人学生達と共に本学の紹介や学生生活の様子を日本語とベトナム語を交えて紹介した。期間中には、コンソーシアム全大学（豊橋技術科学大学、北見工業大学、和歌山大学、長岡技術科学大学、室蘭工業大学、岐阜大学、本学、群馬大学：計8大学）が参加した。なお、本年度の全ての関連行事はオンライン実施だった。

②ハノイ工科大学の学生達による学習発表会 (2021.8.30, 参加者：池浦良淳研究科長, 前田太佳夫教授, 辻本公一教授, 中西栄徳准教授, 丸山直樹准教授)

日本の都道府県の1つを取り上げ、ベトナム（ハノイ）と比較した内容についてハノイ工科大学の学生達が3～4名のグループごとに日本語で発表を行った。2022年4月に3年次編入を目指す学年達（18期生）の日本語習熟度が良く分かる内容だった。

③大学説明会 (2021.11.1, 主な担当：中西栄徳 准教授)

編入学試験の出願期間前に合わせて、コンソーシアム参加大学の担当者が上記日程で各大学の説明を行った。8月の時に比べてより詳細な内容を日本語で説明した後、質問への回答の一部通訳は本学に在籍するベトナム人学生にサポートを依頼した。



参加学生の様子

④熱力学の集中講義 (2021.11.15～19, 担当：丸山直樹 准教授, 小竹茂夫 教授)

18期生の約30名を対象に、「熱力学」の授業を上記の期間で45分×17時限を丸山准教授、45分×1時限を小竹教授が担当し、2名のベトナム人留学生に講義中のサポートを依頼した。来日直後から受講する日本語での専門教育に慣れてもらうことを目的として、ホワイトボードや書画カメラを利用して、手描きでの解説を中心に進めた。質疑応答の時間を適宜入れながら、日本語でのコミュニケーションの時間も多く取った。ハノイ側では大学がロックダウンされており、学生達はそれぞれの自宅や下宿からの参加となり、本学教員側は、高解像度の大型モニターで学生の様子をリアルタイムで見ながら進化した。インターネット回線が不安定になることがあり、学生側のカメラをオフにしてもらう場合もあったが、こちらからの問いかけに対して学生の反応はとて良く、積極的に意見を述べてくれた。リモートでも教育効果は期待できるが、現地での対面による集中講義の再開が望まれる。

⑤3年次編入学生の受入実績等

これまでに、このプログラムを通じて12名の留学生を受け入れた。現在3名が博士前期課程に在籍し、さらに2名が2022年4月から博士前期課程に入学する。また、三重県内の企業を含め日本国内の企業に就職を果たしている。2022年4月には3名の3年次編入学生を受け入れる。

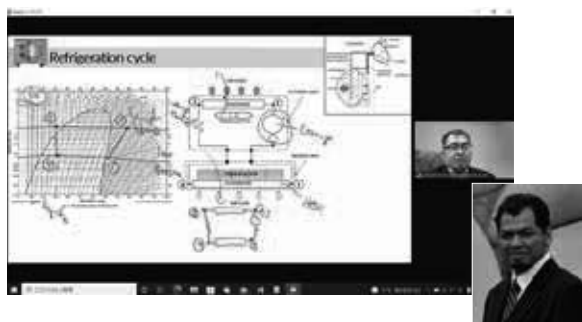
II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

(2) 国際交流事業「学生の国際化意識向上を目的とする外国人教員による英語授業」(担当：丸山直樹 准教授)

工学部学部生及び大学院生の専門授業の一部で、外国人教員および技術者による英語の授業を行った。本事業に参加する教員は、マレーシアとタイからの教員と技術者の計5名で、実施者の共同研究者、所属研究室の元博士後期課程学生および短期留学をした元外国人研究者である。これまで、外国人教員を招聘して英語による専門授業に取り組んできたが、2020年度に実施された本学のリモート授業の経験から、来日することなく海外大学の教員による授業を比較的容易に経験できることがわかり、本事業に取り組んだ。

本授業に協力いただいた講師と授業題目、リモート授業の一例を示す。前後期、計4つの授業において開講した。授業は、実施者の担当する専門授業科目に関連する内容に加えて、各講師の所属する大学等の構成、海外学生の状況、研究内容などの紹介を行った。

- ・ Refrigerant and air conditioning
Assoc. Prof. Ir. Dr. Zuradzman Bin Mohamad Razlan, Universiti Malaysia Perlis, Malaysia
- ・ Combustion and flame
Asst. Prof. Dr. Ponepen Laphirattanakul, King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang, Thailand
- ・ Climate control for agriculture greenhouses
Asst. Prof. Dr. Chatchawan Chaichana, Chiang Mai University, Thailand
- ・ Energy situation and renewable energy development in Thailand
Dr. Yaowateera Achawangkul, Ministry of Energy, Thailand
- ・ Global warming and climate change
Asst. Prof. Dr. Viganda Varabuntoonvit, Kasetsart University, Thailand



Dr. Zuradzman Bin Mohamad Razlan 授業風景



Dr. Ponepen Laphirattanakul 授業風景

各講師それぞれに話し方に特徴があり、授業を各約1時間聴講することで、生の英語に慣れる良い機会になったと思われる。各講師の授業のあと、学生との質疑応答の時間を設けた。大学院生においては、授業内容や感想について英語で質疑応答がされたが、残念ながら学部生からの質疑応答はほとんど行うことが出来なかった。各授業終了後、全受講者から感想を得た。学部生からの反応は、初めのうちは自身の語学力の不足に関する感想が多かったが、回数が進むに従って、授業内容に対する感想や意見が述べられるようになった。生の専門英語に触れる機会が増えるに従い、英語に対するハードルが低くなっているように感じた。学生にとって長時間の英語を聞くにはかなりの集中力が必要となるが、比較的短時間の授業を複数回設けることで、より英語の専門授業への関心が高まるものと思われる。今後もリモート機能を活用し、専門授業の一部に英語による授業を組み込んで行くと良いと考える。

(3) 7研究領域「オンライン国際シンポジウム」の開催

工学研究科では、専攻横断的に7つの研究領域(A領域:ロボティクス・メカトロニクス, B領域:地球環境・エネルギー, C領域:情報処理・情報通信, D領域:ライフサイエンス, E領域:ナノサイエンス・ナノテクノロジー, F領域:先進物質・先進材料, G領域:社会基盤・生産)を設け、地域・国際的課題に対する迅速で柔軟な研究体制の整備とともに、大学院の国際化教育の充実化を図っている。その一環として、各領域では、それぞれの特徴・特色を取り入れた国際シンポジウムを実施している。本年度も、具体的な実施形態は異なるが、公用語を英語とし、学生の英語口頭発表、英語ショートプレゼンテーション・ポスター発表、また当該分野で活躍する外国人研究者の招待講演を中心とした国際シンポジウムを、オンラインで以下の通り開催した。

①A領域国際シンポジウム

2021年12月1日-2日に、ロボティクス・メカトロニクス(A)研究領域国際シンポジウムをハイブリッド形式で開催した。前橋工科大学の朱赤先生よりDevelopments of Human-centered Robotic Systemsと題する招待講演を対面で行っていただいた。講演内容は歩行支援装置、装着型パワーアシスト装置、ロボット制御のための脳-機械インターフェイスと、A領域と関係が深く、参考になる点が多々あった。ロボット、制御、人間-機械共生、自然エネルギー分野における研究成果について、本研究科大学院生24名による講演が行われた。招待講演者の朱先生も参加して、有意義な討議が行われた。さらに朱先生はシンポジウム開催期間に研究室見学とディスカッションを行った。さらに、本シンポジウムの講演論文集が作成され、参加者に配布された。

②B領域国際シンポジウム

2021年9月29日に、地球環境・エネルギー(B)研究領域国際シンポジウムをオンラインZoomで開催し、参加者89名の聴講があった。環境エネルギー関連の研究テーマについて、招待講演1件、本研究科大学院生による口頭発表18件があり、招待講演では、英国キール大学のTatsuya Yasuda博士による「Spatio-temporal dynamics of turbulence: energy transfers and control」と題する乱流制御の研究に関する講演が行われた。

③C領域国際シンポジウム

2021年9月21日に、Zoomを用いたオンラインで、情報処理・情報通信(C)研究領域国際シンポジウムを開催した。情報工学専攻のコンピュータ・ソフトウェア、コンピュータ・アーキテクチャ、コンピュータ・ネットワーク、パターン情報処理、人間情報学、ヒューマンインタフェース教育研究分野、電気電子工学専攻の通信工学、情報処理、計算機工学教育研究分野、物理工学専攻のナノセンシング教育研究分野の研究成果が、各教育研究分野所属の大学院生34名により口頭で発表がなされた。

④D・F領域国際シンポジウム

2021年9月28日-29日にライフサイエンス(D)及び先進物質・先進材料(F)研究領域国際シンポジウムをオンライン(Zoom)で共同開催した。28日は、生体システム工学、分子生物工学、生体材料化学、有機エレクトロニクス、高分子設計化学、有機精密化学、有機機能化学、エネルギー変換化学、分析環境化学、有機素材化学、無機素材化学の各教育研究分野における研究成果について、大学院生70名(本研究科69名、地域イノベ1名)が英語による口頭発表を行った(うち62名は修士論文の中間発表も兼ねる)。発表件数が多いため質疑応答の時間を設けず、代わりに後日Moodleを利用した質疑応答を行なった。29日の招待講演では、フランス・パリ高等師範学校化学部のDamien Baigl(ダミアン ベイグル)教授に「Reconfigurable Self-Assembly: from Evolutive DNA Nanomachines to Living 2D and 3D Crystals」と題して、パリ高等師範学校化学部・フランス国立科学研究センターの山田彩子博士に「Organs-on-Chips: Application for Cancer Studies and Tissue Modeling」と題して、マイクロ・ナノバイオサイエンスの最新研究成果に関する講演を行っていただいた。

II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

⑤ E領域国際シンポジウム

2021年11月24日にナノテクノロジー・ナノサイエンス（E）研究領域国際シンポジウムをハイブリッド形式（対面およびオンラインZoom・Gather）で開催した。参加者数は80名で、オプトエレクトロニクス、有機エレクトロニクス、量子エレクトロニクス、高周波フォトンクス、量子ナノ機能科学、ナノ材料物理化学、ナノデザイン、物性物理学、量子物理学教育研究分野における研究成果について、本研究科大学院生37名によるショートプレゼンテーション及びポスター発表があった。招待講演では、インドネシア国立研究所（BRIN）のYusuf Nur Wijayanto博士による「Small Antennas on Optical Modulators and Its Prospective for Beyond 5G Networks」と題するマイクロ波フォトンクス分野の最新の研究成果について報告があった。

⑥ G領域国際シンポジウム

2021年11月17日に社会基盤・生産（G）研究領域国際シンポジウムを開催した。同日にアメリカ合衆国ハワイ大学マノア校の建築学Kevin Nute准教授の招待講演「Designing Time: Temporal Cues in Built Spaces」、バングラデシュ工科大学A.K.M.Masud教授による招待講演「CNT based Polymer Composite」をオンラインで開催し、多数の聴講を得た。引き続き本研究科大学院生20名による講演があった。2会場にて質疑も含め3時間半のセッションとなった。

(4) オンライン「海外短期インターンシップ」の開催

2021年12月13日、16日に、株式会社安永様、株式会社伊藤製作所様、ヤマモリ株式会社様、住友電装株式会社様のご協力のもと、オンラインによる海外短期インターンシップを実施した。工学部2年生及び3年生の計266名の参加があった。本インターンシップでは、学生に地域企業の魅力・アクティビティを理解させ、企業と学生の距離を近づけさせるとともに、県内企業の海外での活動に触れることにより、グローバル人材への理解・動機付けをさせることを目的としている。今回の参加学生からは、「現地での実際の生活状況をとても知りたくなった。次に海外に行った際には現地で働く邦人の視点で物を見てみようと思った」、「実際に海外で働いている人の話を聞いたことによって、“海外で働く”ということに実感を持つことができた」、「大事なのは語学力よりも行動力や積極性だということを知り、海外勤務を視野に入れることができた」などの海外の企業で働いてみたいとなったという旨の感想が数多く寄せられた。

(5) JICA課題別研修「日本型工学教育を活用した高度産業人材育成」の開催

2021年12月3日から10日にかけて、中央アジア（カザフスタン、キルギス、タジキスタン、トルクメニスタン）の研修員12名に対し、オンライン研修を実施した。初日の12月3日には、各研修員から自国における「エンジニア教育の位置づけ」、「エンジニア教育の現状と課題」、「エンジニア教育と産業の関係」、「エンジニア教育の目標レベル」の四項目についての報告「カントリーレポート発表」を受けた。翌週の6日以降は、「日本の工学教育の概要」（講師：鈴鹿医療科学大学・鶴岡教授）と題して日本の学校制度や工学教育の特徴を、「鈴鹿工業高等専門学校を例にして」（講師：鈴鹿工業高等専門学校・甲斐准教授）、「名古屋工業大学を例にして」（講師：名古屋工業大学・猪股教授）、「三重大学を例にして」（講師：三重大学工学研究科・久保教授）と題してそれぞれの教育機関における特徴とカリキュラムを、「日本・日本企業の特徴、日本企業の人材育成」（講師：三重大学工学研究科・横森産学連携コーディネーター）と題して産学連携に関する講義を実施した。最終日の10日には、当該国の高度産業人材育成に向けた活動提案等の議題を含む国別ディスカッション・成果の発表を行った。研修員からは「各教育機関の教育法は分かりやすくシンプルで興味深い」、「日本における産業界との連携に興味を沸いた」、「豊富な経験と親切的な教え方が好印象であった」などの感想があり、有意義な研修会となった。

6. 生物資源学部・生物資源学研究科

(1) 各種JICA教育プログラムの実施

JICAによる発展途上国の国作りのための教育プログラムとして実施されている事業の多くに生物資源学研究科は参加している。今年度はアフリカ域を対象としたABEイニシアティブ事業（Master's Degree and Internship Program of African Business Education Initiative for Youth）、SDGsグローバルリーダー（SDGs Global Leader）の正規課程学生がコロナ禍でも来日を果たし、研究室での研究や、全国の大学との共通科目へ参加している。また、食料安全保障のための農学ネットワーク（Agri-Net: Agriculture Studies Networks for Food Security）による正規課程入学を目指す研究生の受け入れを行っていて、渡日が可能になる日を待っている。これらは、研究科がこれまでに整備していたオンライン会議設備やオンライン入試制度により、本年度も事業が継続できた。これからも実績を積み重ね、「JICA開発大学院連携」による教育プログラムにより多くの途上国留学生が本研究科で学ぶことになる。

(2) マレーシア・トレンガヌ大学とのオンライン活動

マレーシア・トレンガヌ大学は本年度、大学間協定へ移行した重要な交流校である。実施予定であったマレーシアトレンガヌ大学でのサマースクールを中止したが、オンラインにて生物資源学研究科卒業生でもある教員を講師に迎え、大学院卒業後のキャリアデザインに関する講義を学部1年生対象に実施、また、先方の学生を対象に三重大が研究内容と交流についてwebオープンキャンパスを実施した。生物資源学部1年生260名に対し、生物資源学研究科博士後期課程を修了し、トレンガヌ大学で講師を務める家畠俊平先生をお迎えし、三重大で過ごした学生時代や海外渡航のきっかけや現在の教員としての生活についてお話しいただいた。その後、トレンガヌ大学で実施しているサマースクールやマレーシアでの交流事業の説明を実施した。また別日のマレーシア・トレンガヌ大学向け第二回オンラインオープンセミナーは三重大国際交流Daysの一環として開催され、三重大大学院生物資源学研究科から3名の教員による講演、トレンガヌ大学側は生物資源学研究科で学位を取得後、トレンガヌ大の教員となったインドネシア人卒業生1名を含めた水産食品科学部の教員3名による講演が行われ、60名が参加した。

1年生向けの講義においてのアンケートでは多くの学生が半年以上の留学をしたいと回答しており、またTri-Uやサマースクールなどの短期留学プログラムへの参加を希望していることが把握できた。この気持ちをくみ取り、早期に派遣を再開できる体制の整備に努めたい。



(3) 留学生の力を活かした国際交流

国際交流事業が困難な中、生物資源学研究科の多様な留学生の力を活かす活動を行った。本活動は三重大国際交流事業助成の一環で行われ、留学生を中心に様々な国際交流企画を計画し、研究科の紹介や留学相談をオンラインで実施した。また地域の小学校からの要望を受け、特任教員として活動する留学生を中心にオンライン交流会を実施し、地域の国際化・国際理解活動に貢献した。

II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

a. 津市内の小学校の「出会い学習（国際交流）」への貢献

津市立香良洲小学校6年生39名を対象に、特任教員である留学生を派遣して交流事業を実施する予定であった。しかしながら、蔓延防止措置の発出により、三重大学と香良洲小学校をビデオリンク方式で結んでの交流会となった。交流会は留学生の出身国（ケニア、インドネシア、エジプト）の紹介とともに、小学生との自由な質疑応答を通訳を介して行った。参加した留学生は比較的年齢が高く、家族を帯同しており、子弟が小学校に通っている。そのため、普段感じている日本の小学校に対する疑問や困っていることを素直に話しすることができた。このことで、留学生が普段抱えている不安感を多少和らげ、自らが地域に貢献したいという意欲に応えることができた。また、小学校からは、外国を知ることによってイメージ、見方が変わった。同級生の中にいる外国にルーツを持つ児童の気持ちや困っていることがあるのだということを理解できた等、好評であった。



b. 留学生によるオンラインオープンキャンパス

インドネシア・マレー語圏の大学を対象に三重大学への留学を促すため、マルチリンガル（英語、マレー語、中国語、日本語）でのオンライン留学フェアを企画・実施した。当日は、マレーシア政府が公式には使用しないZoomを利用したが、マレーシアアトレンガヌ大学水産・食品科学科46名がマレーシアより参加した。教員による簡単な大学概要のプレゼンテーションのあと、現在ある日本語の研究科紹介ビデオとは異なり、事前に撮影した留学生による留学生視点でのキャンパスツアー動画、周辺地域の案内、宗教施設、ハラールフードなどの購入場所の紹介動画、研究生生活の動画を配信し紹介した。また、マレーシアの多様性を反映した英語、マレーシア語、日本語、中国語等多言語での質疑応答を実施し、活発な質疑応答となった。この企画においては、自らの留学生生活を紹介したいという留学生の意欲に応えることができた。また教員が企画するオープンキャンパスでは主に手続きの説明が中心となり、学生が聞きたいことが聞けないという意見が寄せられていた。本企画では学生自らが考える、見せたい、知りたい情報を動画にて紹介することで、海外からの参加学生によく伝わったものと思われる。また、留学のきっかけや今後の進路など自らを見直す良い機会となったと思われる。

c. フィリピン・セントラルルソン大学の教員を対象とした大学紹介と生物資源に関するワークショップ

近年留学生が増加し交流が活発となっているフィリピン・セントラルルソン大学の教員を対象に大学と研究室ツアー、生物資源の取得方法と操作、病害の診断に関するオンラインワークショップを、複数のカメラによる手技の動画の配信やサンプルの顕微鏡画像などを用いて実施した。セントラルルソン大から教務担当副学長を始め、30名の参加を得た。本企画では、国費優先配置やJICA Agri-Net事業にて受け入れ予定の教員や学生が携わる共同研究と、三重大学における生物資源の保管や取り扱いについて理解を深めてもらう事で、生物多様性条約に基づいた対応を三重大学が十分に担保していることを説明し、理解された。これにより、困難とされるフィリピンにおける生物資源を用いた国際共同研究の一層の推進が図られるとともに、優秀な学生の受け入れが一層進むものと思われる。

(4) 2021年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」

2019年度「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」に工学研究科と共同で提案した「持続可能な地域と世界の構築のための生物資源学と工学からのアプローチ」が引き続き採択された。このプログラムは渡日前に国際環境教育研究センターが運営するオンライン教育ツールであるSciLetsの各言語版を利用した事前学習と、インターンシップを特色としており、3年間にわたり国費外国人留学生が優先的に配置される。2021年度は生物資源学研究科へ入学予定の4名中3名が来日、留学生生活を開始している。またSciLetsの他言語化へ向け、調整を行っている。

7. 地域イノベーション学研究所

(1) WHO アジア太平洋環境保健センター (WHOACE) 所長就任

朴 恵淑特任教授は、2021年10月15日からWHOアジア太平洋環境保健センター (WHOACE) の所長として就任し、環境と健康に関する国際研究、教育、国際交流に大きな期待が持たれる。WHOACEは、韓国ソウルに拠点を置く、アジア太平洋地域の日中韓を含む37カ国を束ね、大気汚染 (越境生大気汚染)・気候変動 (地球温暖化)・水質保全と衛生の3部門の連携を図る国連機関である。三重県は、日本の高度経済成長を支えた四日市コンビナートの立地地域である一方で、1960年代に四日市コンビナートからの大気汚染物質によって四日市公害の被害を経験している地域であることから、四日市公害の教訓を活かした、三重大学と三重県の国際環境協力のリーダーシップの発揮できる機会となる。また、21世紀の最大環境問題である気候変動 (地球温暖化) に対するアジア太平洋諸国間の国際環境協力を担う国連機関としての役割が最も期待される。さらに、気候変動に伴う異常気象の頻発によって、貧弱なライフラインのアジア太平洋諸国での水質悪化による衛生面での懸念が最も大きい地域であることから、環境地理学者である朴 恵淑特任教授のこれまでのノウハウを活かした、WHOACE所長としてのリーダーシップに高い期待が持たれる。



WHOACE所長 朴 恵淑特任教授



WHOACEスタッフ



ソウルグローバルセンター (WHOACE)



ソウルグローバルセンター (WHOACE)



WHOACE Annual Report 2021 所長挨拶



WHOACE Annual Report 2021

II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

(2) 国連気候変動枠組条約第26回締約国会議（COP26）への参加と活動

2021年10月31日から11月13日までイギリス・グラスゴーで開催された国連気候変動枠組条約第26回締約国会議（COP26）に、朴 恵淑特任教授は、WHOACEの所長及び国際環境NGO代表の一員として参加した。地域イノベーション学研究所の3名の学生（留学生1名）もCOP26へ参加登録を行い、参加予定だったが、イギリスでのコロナ拡散によって参加が見送られた。朴 恵淑特任教授は、COP26の本会議への参加はもちろんのこと、三重大学及び地域イノベーション学研究所の環境・SDGsへの取り組みについて積極的なアピールを行った。

COP26において「グラスゴー気候合意（Glasgow Climate Pact）」が採択されたことで、グラスゴー会議は近年の最も成功した国連の環境会議として高く評価されている。グラスゴー気候合意では、世界が気候変動の時代を超えて、気候危機（Climate Crisis）時代となっていることが再認識させられ、地球温暖化による気温上昇を1.5度に抑えること、気候危機の緩和（Mitigation）・適応（Adaptation）の両方からのアプローチが必要不可欠であり、脱化石社会に向けた再生可能エネルギーへの取り組みの強化及びEV車への転換などが集中的に議論された。また、2030年の持続可能な目標（SDGs）の達成及び2050年のカーボンニュートラル社会（CN）の形成のために、グローバル環境人材の育成、世界の全ての国のバックキャスティング（Back-Casting）による目標を掲げ、産官学民の全てのステークホルダーとのパートナーシップによる実効力ある対策を講じることが合意された。

WHO（世界保健機関）は、気候危機と健康被害による報告を行い、地球温暖化に伴う熱中症などによる死者が年間約25万人、大気汚染による死者は年間約700万人が予想されること、特に、環境問題と健康被害は、コインの表と裏の関係にあることを認識し、経済発展が最も顕著なアジア諸国における環境悪化による健康被害が最も懸念されるとの警告を出した。

COP26の期間中に、朴 恵淑特任教授は、世界各国の政府代表団（日本、韓国など）及び国連緑の気候基金財団の総裁、産業界、SDGsパビリオンの関係者、国際環境NGOとの懇談会を通じて、三重大学及び地域イノベーション学研究所の環境・SDGs活動について積極的なアピールを行った。特に、「三重大学環境・SDGs報告書2021」のWEB版やリーフレット（和文と英文）を用いて、伊藤正明学長の強いリーダーシップによる三重大学の環境・SDGs方針、学長と学生、教職員との座談会、環境研究、環境教育、環境マネジメントシステム、社会貢献についてのアピールを行うのはもちろんのこと、地域イノベーション学研究所の第13回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ（IWRIS2021）のプロシーディングを用いた国際研究活動を通じた国際交流、三重県との連携による三重県SDGs推進パートナー登録制度への協力などについて積極的なアピールを行った。



COP26本会議場（イギリス・グラスゴー）



オバマ元アメリカ大統領の演説



国連緑の気候基金財団の総裁との懇談



韓国政府代表団との懇談



環境NGO活動



COP26会場でのユースミーティング

(3) 第13回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ (IWRIS2021)

地域イノベーション学研究科では、2009年の研究科発足以来、本研究科が主催する地域イノベーション学に関する国際ワークショップを毎年開催している。2021年10月21日に、地域イノベーションホールにて「第13回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ; The 13th International Workshop on Regional Innovation Studies (IWRIS2021)」を開催した。昨年に続き、新型コロナウイルス感染症の影響によって、海外からの研究者や学生の招聘ができない状況から1日の開催に集約したが、ベトナムのVietnam National University, Ho Chi Minh Cityから2名、台湾のAletheia Universityから7名、台湾のTamkang Universityから1名がオンライン参加による研究発表を行った。開催に当たっては、ソーシャルディスタンスによる空間保持、サーマルカメラによる検温やアルコール消毒などの徹底的な感染予防措置を行うのと同時に、バンケット中止の対応を取った。

第13回となる今回の国際ワークショップでは、台湾のAletheia大学のH-F Chang先生による招聘講演「Are “stock returns” a hedge against Inflation in Japan?」が行われ、学生による発表は、4つのセッション (Social Engineering I, II, III for Regional InnovationとEngineering and Bio-Science for Regional Innovations) に分けられ、16件の発表が行われた。参加者数：71名 (うちONLINEの参加者17名) となり、幅広い研究に対して熱心な討論が行われた。地域イノベーション学研究科の学生は、英語での研究論文の執筆、研究発表や質疑応答を英語で行うことによって、英語のコミュニケーション力を高める貴重な経験の場として意義ある国際ワークショップとなった。また、研究発表者の中から最優秀論文賞として、博士課程のRuiyi Taoさん、優秀論文賞として、台湾のTamkang大学のShih-Yuan HuangさんとMihiro Ookaさんが選ばれ、小林一成研究科長から表彰された。

最優秀論文賞

「Atmospheric Impacts of China's regional Integration Policy in Northern China's Industrial Cities- A case study of Tianjin City and Tangshan City by Ruiyi Tao, Norihiro Nishimura, Hye-Sook Park and Takaya Kato」

優秀論文賞

「Effects and Development of Taiwan-US, Trade and Cooperation after the U.S.-China Trade War by Kuan-Ju Lin and Shih-Yuan Huang」

「A Study on Generation of Synthetic Images Using Deep Learning for Wafer-map Anomaly Classification by Mihiro Ooka, Hiroharu Kawanaka and Tetushi Wakabayashi」



発表の様子



最優秀論文賞の授与



第13回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ (IWRIS2021)



国際交流センターの活動

1. 留学生受け入れプログラム

(1) 国際交流センター所属の短期留学生コース

国際交流センターでは、交流協定のある海外の大学からの推薦により、4月または10月に留学生を受け入れており、滞在期間は最長1年間で、留学生は主に日本語コースの授業を受講する。2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、天津CD生18名のみを受け入れた。

(2) 日本語・日本文化研修留学生（日研生）コース

大使館推薦もしくは大学推薦による国費研究留学生（日本語・日本文化研修留学生）のためのプログラムである。母国の大学で日本語・日本文化に関する分野を専攻している学生を対象とし、日本語の能力を向上させながら、日本と自国・他国の文化の比較を通して文化の個性と普遍性について理解を高めることを目指す。

2021年度は、ベトナム、インドネシア、タイ、カンボジアから各1名の計4名を受入れた。指導教員の下でそれぞれの研究テーマに基づいて調べ、国内外でデータ収集をするなどして研究を進めた。他学部で研究テーマに関連のある科目を聴講した日研生もあり、研究成果は2月に中間発表会、7月に研究発表会で披露された。留学生ならではの興味深いテーマや視点に刺激された参加者との間で、活発な質疑応答が交わされた。彼らの論文は、『日本語・日本文化研修留学生 研究レポート集XVⅢ』として発行した。研究テーマは下記のとおり。

日本語・日本文化研修留学生の研究内容一覧（2021年9月）

出身国 (出身大学)	研究タイトル	指導教員
ベトナム (ホーチミン市師範大学)	日本における少年漫画の多様性とベトナム漫画産業の可能性 —ジャーナルの調査結果からの検討—	栗田 聡子 (国際交流センター・准教授)
インドネシア (バジャラン大学)	職場における本音と建前の国別比較 —インドネシアと日本の10年未満社員を対象に—	福岡 昌子 (国際交流センター・教授)
タイ (カセサート大学)	日本人の若者がよく使う現代の若者言葉 —日本人と日本語学習者(タイ人)を対象としたアンケートの調査からの検討—	正路 真一 (国際交流センター・助教)
カンボジア (王立プノンベン大学)	日本の給食制度についてカンボジアが学べること	松岡知津子 (国際交流センター・准教授)

2. 国際教育活動の概略

国際交流センターの教育活動は、授業と海外（語学等）研修に分かれ、授業は主に留学生が対象のA.「日本語・日本文化教育プログラム」と、B.「国際キャリアアッププログラム」の2つに分けられる。「日本語・日本文化教育コース」は、留学生が日本語で受講するクラスが中心で、全学の留学生向けに日本語および日本文化に関する教育を提供するものである。両方のプログラムには、教養教育の単位として開放している授業があり、「留学生と学ぶ日本」のように日本人学生と留学生が日本語で共に学べる（国際共修）授業や、「Environmental studies」、「Media and Japan」等のように英語で学べる国際共修授業を提供し、異文化間の理解と学びを促進している。その他、海外のシンポジウムで研究発表と交流を経験する研修や語学留学等のプログラムを提供している。

国際交流センター開講科目一覧 (2021年度) CIER Class List

コース名 Course	科目名 Subjects	曜日・限 Days/ Periods	担当教員 Faculties
初級集中基礎Ⅰ Intensive Basic I	総合 A/B Total A/B (※)	水 7~8 Wed 7-8	松岡知津子 Matsuoka
	文法 A/B Grammar A/B (※)	月 3~6 Mon 3-6	太田 慶子 Oota
初級集中基礎Ⅱ Intensive Basic II	総合 A/B Total A/B (※)	水 5~6 Wed 5-6	松岡知津子 Matsuoka
	文法 A/B Grammar A/B (※)	木 5~8 Thu 5-8	伊藤 晴苗 Ito
初級集中基礎Ⅲ Intensive Basic III	総合 A/B Total A/B (※)	水 1~2 Wed 1-2	福岡 昌子 Fukuoka
	文法 A/B Grammar A/B (※)	火 3~6 Tue 3-6	仲渡理恵子 Nakato
中級Ⅰ Intermediate I	文法・読解 A/B Grammar and Reading A/B (※)	月 3~4 Mon 3-4	百瀬みのり Momose
	作文 A/B Writing A/B (※)	木 3~4 Thu 3-4	松岡知津子 Matsuoka
	聴解 A/B Listening A/B	月 7~8 Mon 7-8	太田慶子 Oota
	会話 A/B Conversation A/B	金 1~2 Fri 1-2	大野陽子 Oono
	文法 B (後期のみ) Grammar (Only Fall Semester)	火 5~6 Tue 5-6	伊藤晴苗 Ito
中級Ⅱ Intermediate II	文法・読解 A/B Grammar and Reading A/B (※)	前期：月 5~6 後期：木 1~2	前期：福岡 昌子 後期：松岡知津子
	作文 A/B Writing A/B (※)	前期：木 1~2 後期：月 5~6	前期：松岡知津子 後期：福岡 昌子
	聴解・会話 A/B Listening and Conversation A/B (※)	水 5~6 Wed 5-6	福岡 昌子 Fukuoka
	文法 A (前期のみ) Grammar A (Only Spring Semester)	月 9~10 Mon 9-10	太田 慶子 Oota
	読解 A (前期のみ) Reading A (Only Spring Semester)	火 7~8 Tue 7-8	仲渡理恵子 Nakato
	会話 B (後期のみ) Conversation B (Only Fall Semester)	火 3~4 Tue 3-4	大野 陽子 Oono
上級 Advanced	上級総合日本語 1 A/B Advanced Total Japanese 1 A/B	木 7~8 Thu 7-8	正路真一 Shoji
	上級総合日本語 2 A/B Advanced Total Japanese 2 A/B	月 7~8 Mon 7-8	福岡 昌子 Fukuoka
選択科目 Electives	文字・語彙 1 A/B Character and Vocabulary 1 A/B (※)	火 1~2 Tue 1-2	大野 陽子 Oono
	文字・語彙 2 A/B Character and Vocabulary 2 A/B (※)	月 1~2 Mon 1-2	百瀬みのり Momose
	中級へのステップ・アップクラス A/B Step-up to Intermediate Class A/B (※)	金 3~4 Fri 3-4	大野 陽子 Oono
	日本事情 1 A/B 三重の社会と文化 Japanese Culture and Society 1 A/B (※)	火 9~10 Tue 9-10	正路 真一 Shoji
	日本事情 2B (後期のみ) メディアと日本 Japanese Culture and Society 2B (Only Fall Semester)	木 5~6 Thu 5-6	栗田 聡子 Kurita
	日本事情 3 A/B 留学生と学ぶ日本 Japanese Culture and Society 3 A/B (※ (前期のみ))	前期：水 7~8 後期：水 9~10	前期：福岡 昌子 後期：松岡知津子
	日本語教育入門 A (前期のみ) Introduction to Teaching Japanese as a Second Language	水 3~4 Wed 3-4	センター教員他 CIER Faculty

Ⅲ. 国際交流センターの活動

国際キャリアアップ コース（英語） International Career Development Course (Taught in English)	メディアと日本（前期のみ） Media and Japan (Only Spring Semester)	月 9～10 Mon 9-10	栗田 聡子 Kurita
	英語でエッセイ A/B English Short Composition A/B	木 1～2 Thu 1-2	マクダニエル・フロイド McDaniel
	世界遺産と私たち A/B Our World Heritage A/B	金 1～2 Fri 1-2	マホニー・ブライアン Mahoney
	環境問題と地球 A/B Environmental Issues & Our Planet Earth A/B	金 3～4 Fri 3-4	マホニー・ブライアン Mahoney
	三重の社会と文化 A/B The Society and Culture of Mie (English) A/B	火 7～8 Tue 7-8	正路 真一 Shoji
	日本文化紹介 A/B Introduce To Japanese Culture A/B	金 9～10 Fri 9-10	新田 貴士 Nitta

コースコーディネーター：初級集中基礎Ⅰ～Ⅲ・中級Ⅰ・・・松岡、中級Ⅱ・上級・・・福岡、国際キャリアアップ・・・栗田
(※) 市民開放授業設定科目

A. 日本語・日本文化教育プログラム

国際交流センターが開講する日本語プログラムを受講するためには、原則として毎学期日本語レベル判定試験を受けなければならない。日本語レベル判定試験は、本学独自の試験問題を作成しオンラインで実施した。

(1) 日本語研修（初級）集中コース

日本語初級レベルの留学生のために設けられたコースである。2021年度は計62名の留学生が受講した。

(2) 一般日本語教育科目コース

各留学生は、それぞれのニーズと日本語能力に応じて受講することができる。近年では、協定校の短期交換留学生の増加にともない特に中級コースの充実を、また日本で就職を希望する留学生の増加にともない「敬語」「ビジネス日本語」などの上級コースの充実を図っている。

2021年度もオンラインを中心とした授業を実施した。前期の日本語各クラスの合格率や進級率は下記の通りである。

合格率は、基礎Ⅰ：73.1% (19/26)、基礎Ⅱ：96.0% (24/25)、基礎Ⅲ：100% (12/12)、中級Ⅰ：71.0% (22/31)、中級Ⅱ：85.4% (35/41)、上級：70.6% (12/17) だった。進級率（帰国者を除く）については、基礎Ⅰ：60.0% (6/10)、基礎Ⅱ：81.8% (9/11)、基礎Ⅲ：75.0% (6/8)、中級Ⅰ：7.1% (1/14)、中級Ⅱ：50.0% (5/10)、上級：50.0% (6/12) だった。後期の受講状況も良好で、受講者の93.6%が合格し進級した〔初級基礎Ⅰ：23/27 (85.2%)、初級基礎Ⅱ：10/17 (58.8%)、初級基礎Ⅲ：13/14 (92.9%)、中級Ⅰ：22/33 (66.7%)、中級Ⅱ：28/36 (77.8%)、上級：13/15 (86.7%)〕。多くの初級の学生を中級Ⅰレベルへと進ませることができるよう、今後も取り組んでいきたい。

種別	授業名	内容
初級集中基礎 Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	初級基礎Ⅰ総合 初級基礎Ⅰ文法 初級基礎Ⅱ総合 初級基礎Ⅱ文法 初級基礎Ⅲ総合 初級基礎Ⅲ文法	Ⅰ. 日常生活に最低限必要な初歩的な日本語力を身につける。 Ⅱ. 初級集中基礎Ⅰ終了後の基本的な日本語能力身につける。 Ⅲ. 初級集中基礎Ⅱ終了後の基本的な日本語能力を身につける。
中級Ⅰ	初級レベルの基礎的な文法理解力、語彙力、会話力、読解力を土台に、留学生が大学で授業を受けるために必要な読解力および聴解力、文章表現力を身につける。	
	文法・読解	新しい文法項目とことばの理解、本文の内容の理解によって読解力を高め、さらに表現力も身に付ける。
	作文	初級で学んだ文型や語彙を用いて、さまざまなテーマについて表現する力を身に付ける。
	聴解	初級日本語を基礎に、日常に必要なコミュニケーション能力（聴解・会話をメインに）を学習する。
	会話	【前期】話しことばの特徴や発音、あいづち、会話の構成などを学び、会話力を身につける。 【後期】スピーチに必要な文法、構成、発音を学び、実際にスピーチをする。
文法（後期のみ）	中・上級の文法形式を体系的に学び、使い分けや類似表現を正確に理解する。	

中級Ⅱ	専門の授業を受けるための、より高度な文法力、読解力、聴解力、文章表現能力、コミュニケーション力等を身につける。	
	文法・読解	前期は、『日本文化を読む』（アルク）を丁寧に読み、後半では自分の好きな小説の一部を紹介し合う。
	作文	後期は、『留学生のためのここが大切文章表現のルール』（スリーエーネットワーク）を中心に学び、文法を復習しながら作文力を高める。
	聴解・会話	前期は日本文化と社会に関するインタビュー教材を聞き、インタビュアーになってインタビューした内容を発表する。後期はアニメ・ドラマ作品を通して日本語・日本文化を学び、後半は好きなドラマ・アニメの場面を紹介し合う。
	文法（前期のみ）	ニュースや新聞など、日常の生活の中でより高度な日本語の理解を助ける。
	読解（前期のみ）	新聞記事を読み、表現や文法、内容を理解する力を養う。また、ニュースを聞き、キーワードや内容を聞き取る力を身につける。
	会話（後期のみ）	ディスカッションに必要な表現を学び、グラフや統計資料を基にディスカッションをする。
上級	専門分野で研究を行うために必要とされる高度な日本語能力を身につける。中級Ⅱのコースを修了した者、または同等の日本語能力を有する者を対象とする。	
	上級総合日本語1	レポート・論文の書き方を学ぶ。各自が決めたトピックについてリサーチし、実際にレポート・論文を書く。他の受講生のレポートも読み、フィードバックを交換する。
	上級総合日本語2	前期は敬語（尊敬語・謙譲語・丁寧語・丁寧語）の総復習を行い、敬語を使った会話のシナリオを描き演じる。後期は、ビジネス日本語としてビジネス文書・会話、ビジネスマナー、履歴書の書き方、面接方法、企業訪問を行う。

(3) 選択科目：日本語教育・日本文化教育

2002年度以来、個々の学生のニーズに応じて学習の機会を広げることを目的として設けられている。

種別	授業名	内容
日本語教育	文字・語彙1	ひらがな、カタカナ、および初級レベルの漢字を学び、また基礎的な語力を身につける。
	文字・語彙2	日本語の文字・語彙を読む・書く機会をつくる。また、専門科目に必要な文字・語彙を学び日本語能力を高める。
	中級へのステップアップクラス	中級レベルの日本語能力習得に必要な文法力、読解力、聴解力、文章表現能力、コミュニケーション力等を身につける。
	上級へのステップアップクラス	上級レベルの日本語能力習得に必要な文法力、読解力、聴解力、文章表現能力、コミュニケーション力等を身につける。
日本文化教育	日本事情Ⅰ：三重の社会と文化	三重県についての基礎的な情報や文化を学び、またフィールドトリップを通じて実地体験する。
	日本事情Ⅱ：メディアと日本（後期のみ）	留学生と日本人学生が「メディア」に関するテーマを通じ、現代の日本社会や文化・心理傾向について学び、比較により自国に対する理解も深める。
	日本事情Ⅲ：留学生と学ぶ日本	留学生と日本人学生が、日本の社会や文化について共に考え討論する。互いに異文化の視点を尊重し、文化の違いを受入れることを学ぶ。

(4) 市民開放授業

国際交流センターでは、初級レベルの講義から日本語話者向けの講義まで、前期15科目・後期17科目の計32科目を市民開放授業科目に設定した。2021年度前期については1名（2科目）、後期についても1名（2科目）の受講があった。

(5) 日本語補修講座およびサバイバル日本語講座

日本語補修講座および「サバイバル日本語講座」は国際交流センター開講時より開講されてきた。この講座は、学生だけでなく研究者として来日し日本語の授業を学ぶ時間が無い外国人たち、外国人留学生の家族も対象とし、日本で生活するうえで最低限必要な会話力をつけることを目的としたものである。2021年度は、8/17～9/14初級、8/20～9/17中上級、2/19～3/19初級、3期間に渡り日本語講座を実施し、合計29名が毎回熱心にオンラインで受講した。授業では、日本の生活にすぐに役に立つ実践的な練習に取り組んだ。受講生からは、「日本人とコミュニケーションを取ることができるようになった」「日常での買い物をするのにとっても役立った」等の感想が寄せられ、今後も春休みや夏休みを利用して継続実施する。

Ⅲ. 国際交流センターの活動

(6) 協定校への日本語オンライン授業サービス

コロナ禍により来日できない協定校の留学生を対象に、2021年度の試みとして協定校へのオンライン授業サービスを前期と後期に開講することとなった。13か国から63名の留学生が「日本語コミュニケーション」(初級・中級・上級)に参加した。アンケート調査からも実施意義が高い結果が示され、今後も継続実施することとなった。

(7) 日本語日本文化研修生(2020年度生) 中間・最終発表会

日本語日本文化研修生(2020年度生)4名の最終研究発表会を7/16に実施し、4名の市民(公募)を含め15名の参加があった。また、先輩であるクバーゾフ・ヒョードルさん(2009年度生ロシア出身)もZoom参加し、三重大学日本語日本文化研修生として来日した留学当時の思い出を語った。研究の成果をパワーポイントにまとめ発表し、活発な質疑応答が行われた。

(8) 日本語レベル判定試験(一般日本語コース, オンライン授業サービス, 市民開放授業)

2021年度は前期2021年3月18日、後期は9月15日に実施した。さらに、市民開放授業のために、市民専用の日本語レベル判定試験の実施方法について検討し、市民開放授業専用の日本語レベル判定試験を後期から実施することとなった。

(9) その他

- ①2021年12月6日上級総合日本語2B(ビジネス日本語)において、三重県地元企業で働くフ・ブンヒンさん(鈴鹿大学卒業)をZoomに招き「コンビニの店長さんになって活躍する元留学生の話聞く!」のミニ講演会を開催し、11名の参加があった。
- ②2022年1月31日上級総合日本語2B(ビジネス日本語)において、Zoomによる企業訪問を行い、太陽化学株式会社(人事部2名)が企業説明および留学生との質疑応答を行った。
- ③外国人留学生対象オンライン陶芸体験
国際交流センターでは、留学生16名を対象に、Zoomを通じたインストラクターの指導のもと、自宅で実際に粘土をこね、色を付けるオンライン陶芸体験を3月に実施した。

B. 国際キャリアアッププログラム

「国際キャリアアッププログラム」と総称して、国際交流センターでは(1)英語による授業と(2)海外短期研修プログラムを実施している。三重大学の学生であれば留学生を含めて誰でも受講することができ、将来海外の大学や大学院への長期留学を希望する学生には特に推奨している。

(1) 英語による授業(教養教育開放授業)

授業は留学生だけでなく三重大学の学生は誰でも履修可能であり、教養教育の単位が取得できる。2021年度に実施した科目は以下のとおり。

2021年度国際キャリアアップ開講科目(教養教育院開放授業)

授業名	教養教育授業名	内容
メディアと日本	日本学	留学生と日本人学生が「メディア」に関する様々なテーマについて考え、文化についての理解を深める。
三重の社会と文化	三重学	留学生と日本人学生が三重の自然や歴史、文化や社会について学ぶ。
英語でエッセイ	国際理解特殊講義	Students practice writing short compositions in English. Learning American/English styles and formats.
世界遺産と私たち	国際理解特殊講義	This course introduces, explores and reflect upon the many wonders, both natural and man-made, that exist around our world.
環境問題と地球	環境学	Students study and evaluate various environmental issues to recognize the impact these pose to life and sustainability.

(2) 2021年度 海外短期研修プログラム（国際交流センター実施プログラム）

2021年度に国際交流センターが主催で実施した海外短期研修プログラムは以下のとおり。

○Tri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウム

Tri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウムは、三重大学（日本）、チェンマイ大学（タイ）、江蘇大学（中国）、廣西大学（中国）ボゴール農科大学（インドネシア）の5大学が交代でホスト校をつとめ開催される英語による研究論文発表を中心とした国際交流プログラムで、研究論文のテーマは環境やエネルギー問題を中心としている。1994年以来27回目となる2021年度は廣西大学でハイブリッド形式で開催された。本学からは、学生8名と金子特命副学長を含めた教員5名の計13名がオンラインで参加し、口頭発表やポスタープレゼンテーション、ワークショップ等を行った。

○ベトナム・フィールドスタディ（VFS）

ベトナム・フィールドスタディ2021

3月7日から11日までの5日間、三重大学生とホーチミン市師範大学生によるベトナム・フィールドスタディ2021が行われた。本来は現地を訪問する形で行われる本プログラムであるが、新型コロナ感染症拡大の影響により、直接の派遣は行わず、オンラインで交流した。参加学生は三重大学生が15名、ホーチミン市師範大学生が24名であった。

C. その他国際教育活動

(1) 外国人留学生インターンシップ

国際交流センターでは、外国人留学生が日本での就業を体験するため、また日頃の日本語学習の成果を試す場として、留学生を対象としたインターンシップを実施している。2021年度は6月、7月、12月、3月に合計4名の外国人留学生が三重県国際交流財団でのインターンシップに参加した。また、県内の企業で実施した留学のインターンシップ事業活動について、2020年度まで参加した人数、出身国、実施期間、企業先についてまとめ、国際交流センターのホームページに掲載した。

(2) eラーニングツール・英語プレゼンテーション動画

国際交流センターでは、国際学会等で英語でプレゼンテーションをする機会のある学生のために、「英語プレゼンテーション学習動画（英国人講師による指導）」および「英語プレゼンテーションサンプル動画（三重大学生が実際に英語でプレゼンテーションを行なったもの）」の動画を制作し、4月にmoodleの「国際交流センター」→「英語プレゼンテーション動画」にアップロードすることで、今後英語でプレゼンテーションをする機会のある学生たちの教材としていつでも視聴できるよう設定した（三重大学教職員・学生 限定）。



Ⅲ. 国際交流センターの活動

3. 三重大学国際教育交流活動

(1) 国際交流基金助成事業「海外協定校の参加学生によるZoomディスカッションから学ぶ日本語と異文化理解（日本語ディスカッション）」

2021年11月10日から2022年2月9日まで合計13回、毎週水曜日9.10限に国際交流事業「海外協定校の参加学生によるZoomディスカッションから学ぶ日本語と異文化理解（「日本語ディスカッション」）を実施した。ドイツ・ベトナム・中国・台湾・タイ・日本の6協定校の学生18名参加し、毎回楽しく現代の日本社会と日本文化を理解でき（100%）、三重大学（院）への留学したくなったとのアンケートが得られた（82.4%）。参加学生は、日本社会や日本文化について理解を深め、さらに日本語力向上を目指し日本語でのコミュニケーション活動ができる交流事業を求めていることがわかった。

(2) 国際先端セミナー

国際交流センター主催で令和4年2月2日（水）に、国際先端セミナーを開催した。コロナ禍で外国人研究者の受け入れが困難であるため、オンラインによる学術交流を行った。マレーシアのUniversity College TATIのAhmed H. A. Dabwan博士が、「Environmental Technology for Sustainable Development Goals (SDGs)」の講演を実施した。環境保全のための環境負荷低減化技術は、SDGsの目標達成に向けて非常に重要である。本セミナーでは、マレーシアで環境負荷低減化技術の研究に長年取り組んでおられるDabwan博士が、水環境を保全するための最新技術や、マレーシアでのSDGsの現状について分かりやすく話された。約100名の三重大学の学生と、4名のTATI大学の学生が参加し、質疑応答では活発な質問等があった。TATI大学と三重大学は全学協定を締結しており、今後、学生交流だけでなく、学術交流も積極的に実施していきたいと考えている。



(3) 「Let's become a global citizen!」(4回シリーズ)

6月から「Let's become a global citizen!」と題し、津市役所のご協力のもと、海外留学や海外勤務を経験した4名の登壇者から、この時代に不可欠であるグローバルな視点や海外での経験等についてランチタイムにお話を伺うトーク・イベントを開催し、参加者は延べ約220名となった。第2回目の登壇者である前葉津市長は、「『市民の幸せを願う志』を持ち、年々増加する外国人住民やALT（外国語指導助手）への対応ができるグローバル人材は、今後ますます必要になる」と強く語られた。実施日と登壇者は以下の通り。

- ◆第1回（6月18日）梅川逸人先生（現参与・特命副学長：元生物資源教授）。
タイトル：「海外で研究することの意義とは？」と
- ◆第2回（7月9日）前葉泰幸氏（津市長）
タイトル：「地方公務員に必要なグローバルな視点とは？」
- ◆第3回（7月14日）今城茉莉氏（津市役所広報課主事）
タイトル：「留学と海外勤務を経て公務員になった理由とは？」
- ◆第4回（7月28日）吉田悦子先生（人文学部教授）
タイトル：「語学を楽しみながら向上させる秘訣とは？」



(4) 国際交流 Days

2021年度は昨年度から引き続きオンラインで開催。“今だから、つながろう。”をテーマに「三重大学から世界へ～夢を叶えた先輩から在学生へのメッセージ」と題し、4回シリーズでお昼休みに実施した。先が見通せない時期であるからこそ、本学卒業生・在学生・教職員が「つながる」ことをテーマにしたこのイベント。海外留学や海外協力を経て現在国内外で活躍されている4名の卒業生に、それぞれの夢を叶えるまでの様々な経験や仕事への想い等について語っていただいた。12月3日（金）にプレイベントを開催、参加者は高校生も合わせて延べ約300名にものぼり、12月22日（水）、今西 誠之理事（国際担当）による閉会の挨拶のもと、盛会に終了した。実施日と登壇者は以下の通り。

- ◆プレイベント（12/3）：中村 幸翼さん（パナソニック・インダストリアル・マーケティング&セールス(株)）本学生物資源研究科を修了。
- ◆第1回（12/6） 須田 正紀氏（NHK記者・キャスター）本学人文学部文化学科卒業。
- ◆第2回（12/13）伊藤 晴氏（ソプラノ歌手）本学教育学部音楽教育コース卒業。
- ◆第3回（12/22）久留宮 隆氏（国境なき医師団（MSF）日本 会長）本学医学部卒業。



また、同じくオンラインで「交換留学説明会&世界からのWinterレポート」を交換留学派遣の1月選考会に向けて12月17日に開催し、約30名の学生が参加した。交換留学についての説明後に、海外留学中の学生4名からの「Winterレポート」開始。アメリカからは米ノースカロライナ大学ウィルミントン校に留学中の鶴山拓実さん（教育学部4年）、ドイツからはライプツィヒ大学に留学中の中村恵太さん（教育学研究科2年）、ドイツ最古の大学であるハイデルベルク大に留学中の坂奈々恵さん（教育学部4年）と山井奈祐さん（工学部3年）の計3名が参加。それぞれ、現在の受講スケジュールや充実したキャンパスや寮生活、conversation partner（ドイツでは「タンデム」と呼ばれる）と交流する時間など留学生活に関する報告から、クリスマスで煌く街の様子や歴史まで、様々な情報を紹介してくれた。オンラインであっても、現地の空気が伝わるような美しい街の風景やキャンパスに惹かれた参加者も多かったことだろう。参加者が「聞きたい」情報である留学にかかる費用、語学試験への対策、留学後の就活等についても、実感をこめて情報共有してくれた。

Ⅲ. 国際交流センターの活動



2021年度 三重大学国際交流センター主催の主なイベント（オンライン）

開催日時	イベント	主な登壇者	参加者	主な目的
5/12 ランチタイム	留学説明会①	留学経験者1名（本学卒業生） 雲南大学	38名（本学学生）	留学促進
5/21 ランチタイム	留学説明会②オンライン海外研修	留学経験者1名	約30名（本学学生）	留学促進
6/18 ランチタイム	Let's Become a Global Citizen 2021! Talk1	三重大学参与 元生物資源学部教授	63名（本学学生・教職員）	国際教育
6/4 ランチタイム	留学説明会③オンライン海外研修：英語圏	ワイカト大学日本事務所	9名（本学学生）	留学促進
7/9 ランチタイム	Let's Become a Global Citizen 2021! Talk2	津市長	58名（本学学生・教職員）	国際教育
7/14 ランチタイム	Let's Become a Global Citizen 2021! Talk3	津市広報課	66名（本学学生・教職員）	国際教育
7/28 ランチタイム	Let's Become a Global Citizen 2021! Talk4	三重大学人文学部教授	33名（本学学生・教職員）	国際教育
9/16 13:00～14:00	留学説明会④	留学経験者1名 中央大学	17名（本学学生）	留学促進
11/5 ランチタイム	留学説明会⑤オンライン海外研修	オンライン海外研修経験者1名 梨花女子大学	9名（本学学生）	留学促進
12/3 ランチタイム	今だから、つながろう。先輩からのメッセージ プレイベント	2021年度本学卒業生	55名（本学学生・教職員）	国際教育
12/6 ランチタイム	今だから、つながろう。先輩からのメッセージ 第1回トーク	NHKキャスター・記者 （本学卒業生）	63名（本学学生・教職員）	国際教育
12/13 ランチタイム	今だから、つながろう。先輩からのメッセージ 第2回トーク	ソプラノ歌手 （本学卒業生）	76名（本学学生・教職員）	国際教育
12/22 ランチタイム	今だから、つながろう。先輩からのメッセージ 第3回トーク	国境なき医師団日本会長 （本学卒業生）	51名（本学学生・教職員）	国際教育
12/22 15:00～16:00	トレンガヌ大学（マレーシア）オンライン ウェビナー	トレンガヌ大学	60名 （本学学生、その他海外の大学生）	国際教育
12/17 18:00～19:00	留学説明会⑤	留学経験者4名 ハイデルベルク大学 ライプツィヒ大学 ノースカロライナ大学ウィルミントン校	27名（本学学生）	留学促進
1/12 ランチタイム	IELTS 春期集中講座説明会		20名（本学学生）	国際教育
2/15～2/18 9:00～14:45	IELTS 春期集中講座		21名（本学学生）	国際教育
2/18 15:00～16:00	IELTS 春期集中講座参加者交流会	留学経験者1名 タスマニア大学	18名（本学学生）	国際教育



留学生支援・海外留学支援・地域国際化支援

1. 留学生支援

(1) 在留資格認定証明書代理申請

非正規留学生の在留資格認定証明書交付申請を国際交流チームが代理で行い、留学ビザ取得を支援した。

(2) 留学生ガイダンスの実施

例年新渡日の留学生を対象としたガイダンスを4月と10月に実施しているが、2021年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止した。代わりに対象学生には留学生ガイドブック（日・英）を配布し、三重大学での学生生活を送るための基本的なルール、日本での生活ルールについて個別に指導を行った。

(3) 私費外国人留学生優遇制度 ※新規採用は2018年度をもって終了

本学独自の取組みとして、海外の協定校から本学の修士課程・博士課程に入学する優秀な留学生に対して入学金及び授業料の全額免除を実施している。2021年度は2名の留学生に対して支援を行った。

(4) 私費外国人特待留学制度

本学独自の取組みとして2019年度に新設された。本学の修士課程・博士課程に入学する優秀な留学生に対し入学金及び全学免除を実施しており、2021年度は20名の留学生を特待生として支援した。

(5) 奨学金に関する支援

<三重大学独自の奨学金>

・三重大学国際交流特別奨学生制度

海外協定大学から短期留学する外国人留学生の奨学事業

協定大学からの交換留学生を対象として、月額2万円の奨学金を支給しているが、2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により交換留学生の受入れがなかったため実施されなかった。

・伊藤達雄三重大学名誉教授外国人留学生助成金

本学名誉教授からの寄附金を基に新渡日の優秀な留学生に対し奨学金を支給しており、2021年度は、2名の留学生を支援した。

・梅林正直三重大学名誉教授タイ人留学生助成金

本学名誉教授からの寄附金を基に新渡日の優秀なタイ人留学生に対し奨学金を支給しているが、2021年度は、該当者がいなかった。

・三重大学「三重県民共済奨学金」

三重県民共済生活協同組合からの寄附金を基に正規課程に在籍する私費留学生を対象として月額5万円を1年間支給しており、2021年度は延べ7名の留学生を奨学生として支援した。

<各種民間財団等の奨学金>

各種奨学財団等からの募集に対し、留学生委員会において選考し、国際交流チームにて申請手続きを行っている。2021年度の受給実績は次のとおり。

IV. 留学生支援・海外留学支援・地域国際化支援

奨学金名	受給人数（人）
文部科学省外国人留学生学習奨励費	14
ジャパンマテリアル国際奨学財団	8
本田弁二郎留学生技術者育成奨学基金	5
ロータリー米山記念奨学会	3
三重韓国教育会奨学金	2
高山国際教育財団	1
MHI ベトナム奨学金	1
上原記念生命科学財団来日研究生助成金	1

(6) 留学生への就職支援

日本で就職を希望している留学生を対象とした「外国人留学生の就活セミナー2021」を6月、11月、2022年1月の3度、オンライン開催した。それぞれ「就活のスケジュール」、「履歴書の書き方」、「面接の受け方」をテーマとし、延べ参加者数は18人となった。

(7) 三重地域留学生交流推進会議の開催

三重県内における留学生の円滑な受入の促進と交流活動の推進を図るとともに、地域住民の国際理解の増進に寄与するため発足された会議で、2021年度はオンラインにて総会（2021年7月16日）及び運営委員会（2022年2月18日）を開催した。本会議では、昨年度に引き続き新型コロナウイルス禍における参加各機関の留学生支援の取組状況等について情報交換を行ったほか、今後の地域における就職支援等について多岐に渡り活発な意見交換を行った。

(8) 日本人レジデントアシスタント（RA）

留学生寄宿舎のシェアルームには日本人学生がレジデントアシスタント（RA）として入居しており、国際交流会館及び留学生寄宿舎に入居する留学生と日々交流しながら、生活面におけるさまざまなサポートを行った。

(9) 留学生会

受入環境や支援体制の改善・留学生と日本人学生の交流促進・イベントの企画立案や運営について検討することを目的に、各国の代表者を選出し、月に一度意見交換を行った。

(10) チューター制度

チューター学生が新渡日留学生に日常生活に慣れない渡日後3カ月間、学校生活を始めるにあたってのサポートなどを実施業務です。2021年度より指導教員の先生が主体となって留学生とチューター学生のマッチングを行い、国際交流チームがマッチング補助を行っている。2021年度前期は、新型コロナウイルス感染症の影響によりチューター業務の実施はなく、後期は留学生の渡日が順次可能に伴い、感染拡大に最大限の配慮をした上で、7名の留学生が本制度を利用した。

(11) 留学生住宅総合補償（機関保証制度）

留学生が民間宿舎へ入居するにあたり、保証人を探す困難さと保証人の精神的・経済的負担を軽減し、円滑な入居を支援する制度である。留学生がこの制度に加入することで、三重大学が機関保証人となる。2021年度は31名の加入があった。

2. 海外留学支援

(1) 交換留学生の授業料免除制度

本学から協定校に交換留学生として派遣される学生について、協定に基づき、派遣先の大学で授業料を納める必要がある場合、本学の授業料を免除することとしている。

(2) 交換留学・オンライン留学に関する説明会

年3回の交換留学学内選考会開催にあわせ、5月、9月、12月にオンラインで交換留学説明会を開催し、計約80名の学生が参加した。12月回では初の試みとしてドイツ及びアメリカから現地留学中（当時）の学生にZoom参加で生きた留学報告を行ってもらい、参加者にとっては留学を現実的にイメージとして捉えることのできるまたとない機会となった。

その他各協定校より充実したオンラインプログラムが提供され、これについても5月～11月に3回オンラインで説明会を開催し、計約50名の学生が参加した。

(3) 官民協働留学支援制度「～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～」第14期採択結果

データ：トビタテ！14期

2021年度（第14期）＜全国コース＞

No.	申請コース	学部/研究科	課程	学年	受入機関	採択期間
1	多様性人材	教育学研究科	修士	2	国立高雄師範大学（台湾）	2021/8/30～2022/2/18 （6か月）
2	理系、複合・融合系人材	工学研究科	修士	1	マサチューセッツ工科大学 （アメリカ合衆国）	2021/9/20～2021/12/17 （3か月）
3	理系、複合・融合系人材	工学研究科	修士	1	ノースカロライナ州立大学 （アメリカ合衆国）	2021/9/24～2021/11/24 （2か月）
4	理系、複合・融合系人材	工学研究科	修士	1	ブルガリア国立科学アカデミー （ブルガリア）	2021/9/24～2021/11/24 （3か月）
5	理系、複合・融合系人材 （未来テクノロジー人材枠）	工学研究科	修士	1	ジョージア工科大学 （アメリカ合衆国）	2021/9/1～2022/3/1 （6か月）
6	理系、複合・融合系人材	工学研究科	修士	1	ウィスコンシン大学ミルウォーキー校 （アメリカ合衆国）	2021/9/2～2022/3/15 （7か月）
7	理系、複合・融合系人材	生物資源学研究科	修士	1	タスマニア大学 （オーストラリア）	2022/2/14～2022/12/16 （11か月）

※データはすべて採択時のもの

※渡航制限により未実施（留学期間を変更し実施予定）

(4) 奨学金に関する支援

① 三重大学国際交流特別奨学生制度

- ・外国の大学へ留学する学生への奨学事業

協定大学への交換留学生を対象として15万円を支給している。2021年度は9名の学生を支援した。

- ・国際交流事業へ参加する学生への奨学事業

学生が外国で行われる国際交流事業へ参加する場合、10万円を支給している。2021年度は該当する事業がなかったため実施されなかった。

② 海外留学支援制度

2021年度日本学生支援機構の海外留学支援制度において、次のプログラムが採択された。

IV. 留学生支援・海外留学支援・地域国際化支援

＜協定派遣＞渡航制限により未実施。

プログラム名	対象学部	担当教員	採択期間	採択日数	採択人数
三重大学－マレーシアタチ大学間の学生双方向・異文化交流の深化(派遣)	工学研究科	(工) 金子	2021年8月～ 2022年3月	21～28	5
アジア圏異文化の涵養に資するマレーシア短期留学の深化・展開	全学部	(工) 金子	2021年8月～ 2022年3月	21～28	13
問題解決力を備えたグローバル人材を育成する教養教育英語特別プログラム	全学部	(教養教育) サコラウスキー	2021年4月～ 2022年3月	24	46
三重大学看護学生短期相互交流海外研修プログラム	医学部看護学科	(医) 竹内	2021年6月～ 2022年3月	8	8
看護学生による課題追求型、臨地体験型アクティブラーニング形式の海外研修プログラム	医学部看護学科	(医) 竹内	2021年6月～ 2022年3月	32～93	3
ニュージーランドの教育改革と学校教育を学ぶ教育研修プログラム	教育学部	(教) 後藤	2021年9月～ 2021年9月	14	12

＜協定受入＞渡航制限により未実施。

プログラム名	対象学部	担当教員	採択期間	採択日数	採択人数
日本就職に資するマレーシアタチ大学優秀学生の受入れ	工学研究科	(工) 金子	2021年10月～ 2022年3月	170～ 180	6

＜双方向協定型＞協定派遣のみ実施。

プログラム名	対象学部	担当教員	採択期間	派遣/ 受入日数	採択人数
ドイツ語／日本語ステップアッププログラム【みえハイム】 Mie - Heidelberg Mutual international student exchange programe	全学部	(国) 松岡	2020年9月～ 2021年9月	5ヵ月～ 12ヵ月	派遣 4 受入 4

3. 地域の国際化支援

(1) 留学生の地域派遣

三重県内の教育機関等からの依頼を受け、以下のとおり国際交流行事等に延べ10名の留学生を派遣し、地域の学生等と交流を図り、地域の国際化に寄与した。

年月日	依頼元	依頼内容	留学生派遣人数
2021/8/1	津市	ワールドステージ in アルスプラザ	2
2021/12/18	三重県国際戦略課	太平洋島嶼国の学生とみえグローバル学生大使の交流会	2
2022/1/12, 1/26, 2/2, 2/9	津市役所	職員向け英語研修	5
2022/2/13, 2/20	三重県国際戦略課	2021 グローバル環境セミナー（オンライン）	1

2022年1月12日～2月9日：津市役所向け英語研修

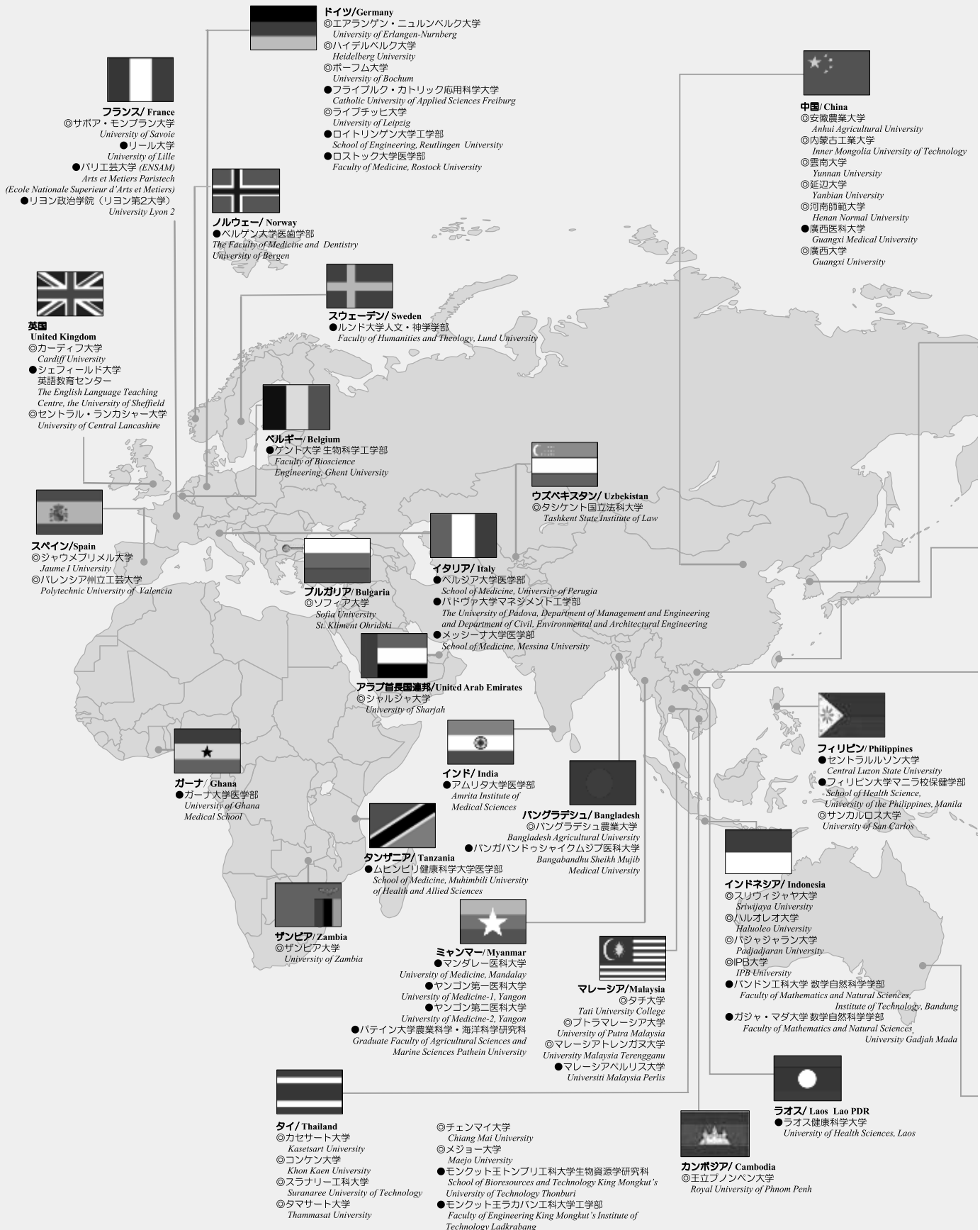
津市職員の外国語での窓口対応能力向上を目的に、英語研修が4回にわたって津市役所にて開催された。本学から外国人留学生5名（ガーナ・ネパール・インドネシア・中国）が参加。参加した津市職員の方々からは、今後の窓口対応について非常に参考になった、コミュニケーションの自信につながったなど、大きな学びがあったとの感想をいただいた。学生たちにとっても大変貴重な国際交流の場となった。





資料

1. 海外大学等との協定締結機関地図



国際交流協定締結機関 International Partner Institutions

- ◎江蘇大学
Jiangsu University
- ◎江南大学
Jiangnan University
- ◎上海海洋大学
Shanghai Ocean University
- 上海交通大学医学部
Shanghai Jiao Tong University School of Medicine
- ◎西安理工大学
Xi'an University of Technology
- 清华大学能源与动力工程系
Faculty of Thermal Engineering and Engineering Mechanics, Tsinghua University
- 浙江大学理学部
College of Science Zhenjiang University
- ◎天津師範大学
Tianjin Normal University
- 南開大学日本研究院
Institute of Japanese Studies, Nankai University
- ◎南京工業大学
Nanjing Tech University
- ◎北京外国語大学
Beijing Foreign Studies University
- 北京理工大学外国語学院
School of Foreign Languages, Beijing Institute of Technology
- 蘭州大学第2臨床医学院
The Second Medical College of Lanzhou University
- ◎鄭州大学
Zhengzhou University



大韓民国/Republic of Korea

- ◎世宗大学校
Sejong University
- ◎済州大学
Jeju National University
- ◎東国大学校
Dongguk University
- 釜慶国立大学校水産科学学部・環境海洋学部
College of Fisheries, College of Environmental and Marine Science and Technology, Pukyong National University
- ◎梨花女子大学校
Ewha Womans University
- ◎中央大学校
Chung Ang University
- ◎啓明大学校
Keimyung University



台湾/Taiwan

- ◎国立高雄師範大学
National Kaohsiung Normal University
- ◎真理大学
Aletheia University
- ◎国立中山大学
National Sun Yat-sen University
- ◎国立金門大学
National Quemoy University
- ◎南台科技大学
Southern Taiwan University of Technology
- ◎国立台湾海洋大学
National Taiwan Ocean University
- 国立成功大学 化学工程系
Department of Chemical Engineering, National Cheng Kung University



ベトナム/Viet Nam

- ◎外国貿易大学
Foreign Trade University
- ◎カントー大学
Can Tho University
- ◎ホーチミン市師範大学
Ho Chi Minh City University of Education
- ベトナム科学技術院(VAST)エネルギー研究所(IES)
Vietnam Academy of Science and Technology, Institute of Energy Science
- ダナン大学科学教育大学
Danang University-University of Science and Education



フィジー/Fiji

- ◎フィジー国立大学
Fiji National University
- ◎南太平洋大学
The University of the South Pacific



ニュージーランド/New Zealand

- オークランド大学教育学部
Faculty of Education, The University of Auckland



オーストラリア/ Australia

- ◎タスマニア大学
University of Tasmania
- フレインダース大学医学部
Flinders University, School of Medicine



アメリカ/ United States of America

- ウェイノ州立大学医学部
Wayne State University School of Medicine
- 財団法人クリーブランドクリニック
医用生体工学ラーナー研究所
The Cleveland Clinic Foundation Lerner Research Institute
- ニューメキシコ大学医学部
University of New Mexico School of Medicine
- ◎ノースカロライナ大学ウィルミントン校
University of North Carolina Wilmington
- ◎ハワイパシフィック大学
Hawai'i Pacific University
- マーサー大学医学部
Mercer University School of Medicine
- ワシントン大学医学部
University of Washington, School of Medicine
- 東ワシントン大学
Eastern Washington University
College of Business and Public Administration, Eastern Washington University



ペルー/Peru

- ◎国立ラ・モリーナ農業大学
La Molina National Agrarian University



ブラジル/ Brazil

- ◎サンパウロ大学
University of Sao Paulo

◎大学間協定締結機関

23カ国・地域 65大学・機関

University Level: 23 Countries/Areas, 65 Institutions

●学部間協定締結機関

24カ国 48大学・機関

Faculty Level: 24 Countries, 48 Institutions

総協定大学数

33カ国・地域 113大学・機関

Total of 33 Countries/Areas,
113 Institutions

2022年4月1日現在
As of April 1, 2022

2. 学術交流協定大学一覧

(1) 大学間協定：23カ国・地域65大学・機関

2022年4月1日現在

	大学・機関名	国・地域名	協定締結日	
			一般協定	学生交流の実施に関する覚書
1	江蘇大学	中国	1986年01月15日	1995年09月29日
2	チェンマイ大学	タイ	1989年08月22日	1996年01月31日
3	タスマニア大学	オーストラリア	1996年04月01日	1996年04月01日
4	バレンシア州立工芸大学	スペイン	1997年07月04日	2003年01月10日
5	廣西大学	中国	1999年02月22日 (1995年04月21日：生物)	1999年02月22日 (1995年12月19日：生物)
6	カセサート大学	タイ	1999年12月23日	2000年07月24日
7	コンケン大学	タイ	2000年07月17日 (1994年08月25日：医学)	2000年07月17日
8	エアランゲン・ニュルンベルク大学	ドイツ	2001年03月16日	2001年03月16日
9	東国大学校	韓国	2002年12月16日	2004年03月24日
10	梨花女子大学校	韓国	2002年12月17日	2004年03月23日
11	西安理工大学	中国	2003年08月28日	2003年08月28日
12	スラナリー工科大学	タイ	2003年10月18日 (2000年09月08日：生物)	2003年10月18日
13	バングラデシュ農業大学	バングラデシュ	2004年03月15日	2004年03月15日
14	天津師範大学	中国	2004年11月20日 (2003年03月15日：教育)	2004年11月20日 (2003年03月15日：教育)
15	ノースカロライナ大学ウィルミントン校	米国	2005年12月21日	2005年12月21日
16	江南大学	中国	2006年02月13日 (1998年03月30日：生物)	2006年02月13日 (1998年03月30日：生物)
17	IPB大学	インドネシア	2006年09月24日 (2001年09月24日：生物)	2006年09月24日 (2001年09月24日：生物)
18	スリウィジャヤ大学	インドネシア	2007年11月06日	2007年11月06日
19	タマサート大学	タイ	2008年01月15日 (2004年02月27日：生物)	2008年01月15日 (2004年02月27日：生物)
20	南京工業大学	中国	2008年07月07日	2008年07月07日
21	ハイデルベルク大学	ドイツ		2008年12月12日
22	河南師範大学	中国	2008年12月15日 (2005年10月26日：教育)	2008年12月15日 (2005年10月26日：教育)
23	世宗大学校	韓国	2009年02月10日	2009年02月10日
24	メジョー大学	タイ	2009年03月31日	2009年03月31日
25	外国貿易大学	ベトナム	2009年05月26日	2009年05月26日
26	ホーチミン市師範大学	ベトナム	2009年07月28日	2009年07月28日
27	上海海洋大学	中国	2009年09月24日 (1995年10月16日：生物)	2009年09月24日 (1996年10月24日：生物)
28	タシケント国立法科大学	ウズベキスタン	2010年03月22日	2010年03月22日
29	内蒙古工業大学	中国	2010年03月31日 (2000年03月08日：工学)	2010年03月31日 (2000年11月13日：工学)
30	ハルオレオ大学	インドネシア	2010年07月23日	2010年07月23日
31	* ハワイバシフィック大学	米国	2010年09月13日	

大学・機関名		国・地域名	協定締結日	
			一般協定	学生交流の実施に関する覚書
32	シャルジャ大学	アラブ首長国連邦	2010年10月04日 (2008年12月24日：医学)	2010年10月04日 (2008年12月24日：医学)
33	延辺大学	中国	2010年10月15日	2010年10月15日
34	サボア・モンブラン大学	フランス	2010年11月04日	2010年11月04日
35	ボーフム大学	ドイツ	2011年03月28日	2011年03月28日
36	ジャウメプリメル大学	スペイン	2011年04月14日	2011年04月14日
37	カーディフ大学	英国	2011年07月15日	2011年07月15日
38	安徽農業大学	中国	2011年10月25日 (2008年10月21日：生物)	2011年10月25日 (2008年10月21日：生物)
39	ライプツヒ大学	ドイツ		2012年02月07日
40	バジャジャラン大学	インドネシア	2012年02月24日	2012年02月24日
41	タチ大学	マレーシア	2012年05月24日 (2010年08月02日：工学)	2012年05月24日
42	プトラマレーシア大学	マレーシア	2012年08月08日 (2006年09月19日：生物)	2012年08月08日
43	雲南大学	中国	2012年08月20日	2012年12月25日
44	北京外国語大学	中国	2012年09月21日 (2012年03月23日：人文)	2012年09月17日
45	セントラル・ランカシャー大学	英国	2017年01月31日	2013年04月19日
46	国立高雄師範大学	台湾	2013年06月18日	2013年06月24日
47	国立ラ・モリーナ農業大学	ペルー	2013年08月23日	2013年08月23日
48	フィジー国立大学	フィジー	2014年05月05日	2014年05月05日
49	南太平洋大学	フィジー	2014年05月06日	2014年05月06日
50	カントー大学	ベトナム	2014年09月12日	2014年09月12日
51	中山大学	台湾	2014年11月04日	2014年11月04日
52	ザンビア大学	ザンビア	2014年11月11日 (2007年02月07日：医学)	2014年11月11日 (2007年02月07日：医学)
53	国立金門大学	台湾	2015年06月23日	2015年06月23日
54	サンパウロ大学	ブラジル	2015年07月07日 (2011年5月16日：人文)	2015年07月07日
55	南台科技大学	台湾	2015年08月28日 (2014年11月14日：イノベ)	2015年08月28日
56	済州大学	韓国	2015年09月14日	2015年09月14日
57	ソフィア大学	ブルガリア	2016年09月19日	2016年09月19日
58	王立ブノンベン大学	カンボジア	2017年01月18日	2017年01月18日
59	国立台湾海洋大学	台湾	2019年01月03日	2019年01月03日
60	サンカルロス大学	フィリピン	2019年08月16日	2019年11月25日
61	中央大学校	韓国	2019年10月14日	2019年10月14日
62	真理大学	台湾	2020年01月14日	2020年01月14日 (2014年10月21日：イノベ)
63	* マレーシアトレンガヌ大学	マレーシア	2020年07月30日 (2017年11月28日：生物)	2020年07月30日 (2017年11月28日：生物)
64	啓明大学校	韓国	2021年08月12日	2021年08月12日
65	鄭州大学	中国	2021年11月04日	

*印のついている大学は、授業料等を徴収する協定大学

V. 資料

(2) 部局間協定：24カ国・地域 48大学・機関

2022年4月1日現在

部局名	大学・機関名	国・地域名	協定締結日	
			一般協定	学生交流の実施に関する覚書
教養教育院	* シェフィールド大学英語教育センター	英国	2015年09月10日	
人文学部 人文社会科学 研究科	リール大学	フランス	1989年11月01日	2013年03月15日
	リヨン政治学院（リヨン第2大学）	フランス	2002年01月21日	2002年01月21日
	ルンド大学人文・神学学部	スウェーデン	2011年03月18日	2011年03月18日
	南開大学日本研究院	中国	2010年01月22日	2013年03月18日
教育学部	* オークランド大学教育学部	ニュージーランド	2013年08月14日	
	* 北京理工大学外国語学院	中国	2015年11月16日	
医学系研究科 医学部	* マーサー大学医学部	米国	1998年10月29日	
	* ウェイン州立大学医学部	米国	2002年03月18日	
	上海交通大学医学院	中国	2004年08月11日	2009年12月01日
	* ロストック大学医学部	ドイツ	2004年10月29日	
	廣西医科大学	中国	2006年06月06日	2020年9月1日
	ムヒンビリ健康科学大学医学部	タンザニア	2007年10月19日	2007年10月19日
	ニューメキシコ大学医学部	米国	2009年06月24日	
	ガーナ大学医学部	ガーナ	2010年02月18日	2010年02月18日
	ベルジア大学医学部	イタリア	2010年02月22日	2010年02月22日
	蘭州大学第二臨床医学院	中国	2011年03月17日	2011年03月17日
	ラオス健康科学大学	ラオス	2011年09月26日	2011年09月26日
	アムリタ大学医学部	インド	2012年01月30日	1995年01月30日
	* ヤンゴン第一医科大学	ミャンマー	2012年12月17日	
	フリントラス大学医学部	オーストラリア	2014年02月27日	2014年02月27日
	* フライブルク・カトリック応用科学大学	ドイツ	2014年06月11日	2014年06月11日
	* ワシントン大学医学部	米国	2014年08月25日	
	* マンダレー医科大学	ミャンマー	2014年11月04日	
	フィリピン大学マニラ保健学部	フィリピン	2015年07月23日	2015年07月23日
	* ヤンゴン第二医科大学	ミャンマー	2015年10月22日	
	バンガバンドゥシャイクムジブ医科大学 (BSMMU)	バングラデシュ	2015年7月27日	2015年7月27日
	ベルゲン大学医歯学部	ノルウェー	2016年1月21日	
	メッシーナ大学医学部	イタリア	2019年10月23日	2019年10月23日
	工学研究科 工学部	清華大学能源与☒工程系	中国	1995年10月01日
モンクット王ラカバン工科大学工学部		タイ	2005年09月05日	2005年09月05日
浙江大学理学部		中国	2009年03月28日	2009年03月28日
パリ工芸大学		フランス	2009年08月31日	2009年08月31日
* 財団法人クリーブランドクリニック医用生体工学ラーナー研究所		米国	2011年04月22日	
バドヴァ大学マネジメント工学部		イタリア	2014年02月17日	2016年09月19日
ベトナム科学技術院 (VAST) エネルギー科学研究所 (IES)		ベトナム	2014年09月30日	2014年09月30日
ロイトリンゲン大学工学部		ドイツ	2015年03月05日	2020年04月29日
ガジャ・マダ大学数学自然科学学部		インドネシア	2019年01月31日	2019年01月31日
バンドン工科大学数学自然科学学部		インドネシア	2019年02月19日	2019年2月19日
国立成功大学化学工程系		台湾	2019年04月12日	2019年4月12日
マレーシアペルリス大学		マレーシア	2021年12月27日	2021年12月27日
ダナン大学科学教育大学		ベトナム	2022年2月24日	2022年2月24日
生物資源学研究科 生物資源学部	釜慶国立大学校 水産科学学部・環境海洋学部	韓国	1995年09月22日	2013年02月06日
	モンクット王トンブリ工科大学生物資源学研究科	タイ	2009年10月20日	2009年10月20日
	ゲント大学生物科学工学部	ベルギー	2015年03月09日	2015年03月09日
	パテイン大学大学院農業科学・海洋科学研究所	ミャンマー	2016年12月04日	
	セントラルルソン大学	フィリピン	2018年08月01日	2018年08月01日
地域イノベーション学 研究科	東ワシントン大学	米国	2017年08月03日	

*印のついている大学は、授業料等を徴収する協定大学

3. 2021年度 国籍別・学部別外国人留学生数

(1) 2021年度 国籍別留学生数

	総数	(女子)
30ヶ国・地域	174	(77)

2021年5月1日現在

国・地域名	【学部】		【大学院】		【国際交流センター】	計	
	正規生	非正規生	正規生	非正規生	非正規生		
アジア	中国	10 (2)	13 (4)	47 (27)	1 (0)	18 (16)	89 (49)
	ベトナム	8 (1)		5 (0)		1 (1)	14 (2)
	韓国	12 (5)					12 (5)
	インドネシア			12 (5)		1 (0)	13 (5)
	マレーシア	2 (0)		2 (2)			4 (2)
	バングラデシュ			4 (1)			4 (1)
	タイ			4 (3)		1 (1)	5 (4)
	ミャンマー			3 (0)			3 (0)
	カンボジア	1 (0)		1 (0)		1 (0)	3 (0)
	フィリピン			1 (1)			1 (1)
	ラオス			2 (0)			2 (0)
	ネパール			1 (1)			1 (1)
	スリランカ			1 (0)			1 (0)
	東ティモール			1 (1)			1 (1)
台湾		1 (0)	1 (0)			2 (0)	
アフリカ	ガーナ			6 (2)			6 (2)
	エジプト			2 (2)			2 (2)
	タンザニア			2 (0)			2 (0)
	ザンビア			1 (0)			1 (0)
	アルジェリア			1 (0)			1 (0)
	ケニア			1 (0)			1 (0)
	モザンビーク			1 (0)			1 (0)
中南米	パラグアイ			1 (1)			1 (1)
	メキシコ			1 (0)			1 (0)
	パプアニューギニア			1 (1)			1 (1)
	ソロモン諸島			1 (0)			1 (0)
	バヌアツ			1 (0)			1 (0)
合計	33 (8)	14 (4)	104 (47)	1 (0)	22 (18)	174 (77)	
	47 (12)		105 (47)		22 (18)		

() は、内数で女子学生数を示す。

正規生	非正規生
137 (55)	37 (22)

V. 資料

(2) 学部別留学生数

2021年5月1日現在

	学部		修士		博士		計
	正規	非正規	正規	非正規	正規	非正規	
人文学部・人文社会科学研究科	14 (4)	5 (3)	11 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	30 (12)
教育学部・教育学研究科	1 (1)	0 (0)	3 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (3)
医学部・医学系研究科	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	22 (11)	0 (0)	23 (12)
工学部・工学研究科	17 (2)	4 (0)	14 (4)	0 (0)	17 (5)	0 (0)	52 (11)
生物資源学部・生物資源学研究科	1 (1)	5 (1)	16 (7)	1 (0)	14 (8)	0 (0)	37 (17)
地域イノベーション学研究科	0 (0)	0 (0)	4 (2)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	6 (4)
国際交流センター	0 (0)	22 (18)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	22 (18)
計	33 (8)	36 (22)	49 (21)	1 (0)	55 (26)	0 (0)	174 (77)

() は、内数で女子学生数を示す。

4. 三重大学生の海外派遣

2021年度の三重大学における海外派遣数は、交換留学による半年～1年の長期派遣の9名であった。

(1) 交換留学による派遣

現地への派遣

部 局	国・地域名	大 学 名	人数
人文学部	アメリカ	ノースカロライナ大学ウィルミントン校	1
	ドイツ	ハイデルベルク大学	1
	イギリス	セントラルランカシャー大学	1
	韓国	中央大学校	1
教育学部	ドイツ	ハイデルベルク大学	1
	アメリカ	ノースカロライナ大学ウィルミントン校	1
	ドイツ	ライプツィヒ大学	1
工学部	ドイツ	ハイデルベルク大学	2
合 計			9

(2) トビタテ！留学JAPANによる派遣

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、実施されなかった。

(3) 海外短期派遣プログラム (部局別)

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンラインによる開催もしくは中止となった。

プログラム名	交流大学・機関・企業等	国・地域名	派遣期間
全学対象プログラム			
第27回国際ジョイントセミナー&シンポジウム	廣西大学	中国	1週間
タチ大学夏期英語研修(8月)	タチ大学	マレーシア	4週間
タチ大学春期英語研修(3月)	タチ大学	マレーシア	4週間
サウスカロライナ大学英語研修(3月)	サウスカロライナ大学	アメリカ	3週間
ベトナム・フィールドスタディ	ホーチミン市師範大学	ベトナム	9日間
済州大学韓国語・韓国文化研修	済州大学	韓国	3週間
教養教育院			
英語特別プログラム短期海外研修	シェフィールド大学	英国	23日間
人文学部			
オックスフォード大学夏期英語研修	オックスフォード大学ハートフォードカレッジ	英国	2週間
短期ドイツ文化研修	ヴァイマル、ライプツィヒ、ベルリン	ドイツ	9日間
短期タイ文化研修	タマサート大学	タイ	2週間
教育学部			
海外教育研修	オークランド大学	ニュージーランド	15日間
短期中国文化研修	北京理工大学	中国	5日間
医学系研究科・医学部			
海外臨床実習	ワシントン大学	アメリカ	4週間
海外臨床実習	シャルジャ大学	アラブ首長国連邦	4週間
海外臨床実習	カーディフ大学	英国	4週間
海外臨床実習	ベルビア大学	イタリア	4週間
海外臨床実習	アムリタ大学	インド	4週間
海外臨床実習	ザンビア大学	ザンビア	4週間
海外臨床実習	タマサート大学	タイ	4週間
海外臨床実習	ムヒンビリ健康科学大学	タンザニア	4週間
海外臨床実習	上海交通大学	中国	4週間
海外臨床実習	フィリピン大学	フィリピン	4週間
海外臨床実習	サンパウロ大学	ブラジル	4週間
海外臨床実習	ヤンゴン小児病院	ミャンマー	4週間
早期海外体験実習	ワシントン大学	アメリカ	9日間
早期海外体験実習	アーナンダ病院	インド	13日間
早期海外体験実習	コンケン大学、ラオス健康科学大学	タイ、ラオス	9日間
早期海外体験実習	上海交通大学	中国	2週間
看護学科短期海外研修	チェンマイ大学	タイ	9日間
看護学科短期海外研修	フライブルク応用科学カトリック大学	ドイツ	9日間
工学研究科・工学部			
工学研究科海外短期研修	海外協定校等		4週間
海外短期インターンシップ	タイ、フィリピン、ベトナムの日本企業等		10日間
生物資源学研究科・生物資源学部			
サマースクール	トレンガヌ大学	マレーシア	23日間

V. 資料

5. 国際的な学術交流活動・教育活動に関する教職員の研究・教育実績

(2021年4月1日～2022年3月31日)

<教養教育院>

学術論文

1. Sokolovsky, J. Adapting a Program for the Advancement of English Studies and Globalization Skills in the Face of COVID-19. *Mie University Journal of Studies on Higher Education*. Vol. 28. pp. 67-70. 2022.

学会発表

1. 福田知子, Linnik E. エゾクロクモソウ（ユキノシタ科チシマイワキ属）の系統地理解析と種内分類との対応. 日本植物学会第85回大会 2021年9月16-19日. (オンライン開催)
2. Fukuda T., Linnik E. (2021) Phylogeny of *Micranthes fusca* (Saxifragaceae) and haplotype analysis. The 9th East Asian Plant Diversity and Conservation -Virtual Symposium 2021. Oct. 29-30, 2021, Sungkyunkwan University, Korea.

継続中の「共同研究についての契約」

福田知子 ウラジオストク植物園（先方園長—三重大学長間, 2019年10月1日～2024年12月31日）

<人文学部・人文社会科学研究科>

学術書

1. Kyuma, Taiken (Opening Address and Introduction) Revisiting Buddhist Monasteries in the Gupta and Post-Gupta Periods. July 31, 2021 (Online International Symposium)
2. Kyuma, Taiken (Introductory Remarks) On the Regional Development of Early Medieval Buddhist Monasteries in South Asia. October 29, 2021 (International Workshop)
3. Kyuma, Taiken (Opening Address & Closing Address) Different Perspectives on Monasteries in India. November 13 and 14, 2021 (Online Lecture Series)
4. Kyuma, Taiken (Opening Address & Introductory Remarks: Some Observations on the Decline of Indian Buddhism, Convenor) Different Approaches to Indian Buddhist Monasteries from the Gupta Period Onward. November 20 and 21, 2021 (Online International Symposium)
5. Kyuma, Taiken (Opening Address) Studies on Buddhist Monastic Cultures: German-Japanese Collaboration (Part 2). March 16 and 23, 2022 (Online International Workshop)

国際教育研究プロジェクト

1. Tachikawa, A. (Online Lecture, Week 12, March 2022) Intercultural Legacies: Japanese-Canadian Indigenous Fishers Today, In PACIFIC STUDIES #### CANADA'S WEST COAST FISHERY, A Course offered at North Island College, British Columbia, Canada, funded by the Government of Canada through Colleges and Institutes of Canada's Study Abroad Innovation Fund.

<工学部・工学研究科>

1. N. Khammayom, N. Maruyama, C. Chaichana and M. Hirota, Filed Test and Analysis of Copper Pipe Radiant Cooling for Greenhouse in Tropical Countries, Proceedings of 2021 Symposium on Environmental Engineering, Japan Society of Mechanical Engineers, Paper No. 404, 4p., 2021.
2. N. Khammayom, N. Maruyama, C. Chaichana and M. Hirota, Energy and environmental analysis for strawberry cultivation in small walk-in tunnel, Lecture Meeting, The Heat Transfer Society of Japan, Tokai Chapter, 2021.
3. N. Khammayom, N. Maruyama, M. Hirota and C. Chaichana, Experimental Study of Local Microclimate and Heat Transfer Performance of a Serpentine Copper Pipe, Tokai Engineering Complex 2022, 1p., 2022.

4. N. Khammayom, N. Maruyama and C. Chaichana, The effect of climatic parameters on strawberry production in a small walk-in greenhouse, *AgriEngineering*, Vol. 4, No. 1, pp. 104-121, 2022.
5. N. Khammayom, N. Maruyama, C. Chaichana, M. Hirota, Impact of environmental factors on energy balance of greenhouse for strawberry cultivation, *Case Studies in Thermal Engineering*, Vol. 33, Paper No. 101945, 13 pages, 2022.
6. N. Maruyama, C. Chaichana, Microclimate for Indoor Plantation Technology Development, *International Joint Research 2021*.
7. A. Nishimura, Y. Sakakibara, A. Koshio, E. Hu, The Impact of Amount of Cu on CO₂ Reduction Performance of Cu/TiO₂ with NH₃ and H₂O, catalysts, Vol. 11, No. 610, 2021.
8. A. Nishimura, R. Shimada, Y. Sakakibara, A. Koshio, E. Hu, Comparison of CO₂ Reduction Performance with NH₃ and H₂O between Cu/TiO₂ and Pd/TiO₂ molecules, Vol. 26, No. 2904, 2021.
9. A. Nishimura, N. Kono, K. Toyoda, Y. Kojima, M. L. Kolhe, Impact Analysis of MPL on a PEMFC Cell's Temperature Distribution with Thin PEM and GDL for Operating at Higher Temperature than Usual *Journal of Energy and Power Engineering*, Vol. 15, pp. 39-51, 2021.
10. A. Nishimura, T. Takada, S. Ohata, M. L. Kolhe, Biogas Dry Reforming for Hydrogen through Membrane Reactor Utilizing Negative Pressure, *fuels*, Vol. 2, 2021.
11. A. Nishimura, T. Okado, Y. Kojima, E. Hu. Impact of Microporous Layer on Heat and Mass Transfer in a Single Cell of Polymer Electrolyte Fuel Cell Using a Thin Polymer Electrolyte Membrane and a Thin Gas Diffusion Layer Operated at High-Temperature Range, *ACS OMEGA*, Vol. 6, No. 22, pp. 14575-14584, 2021.
12. A. Nishimura, K. Toyoda, Y. Kojima, S. Ito, E. Hu, Numerical Simulation on Impacts of Thickness of Nafion Series Membranes and Relative Humidity on PEMFC Operated at 363 K and 373 K, *energies*, Vol. 14, 2021.
13. A. Nishimura, Y. Kojima, S. Ito, E. Hu, Impacts of Separator Thickness on Temperature Distribution and Power Generation Characteristics of a Single PEMFC Operated at Higher Temperature of 363 and 373 K, *energies*, Vol. 15, 2022.
14. S. Kondo, The 4th International Symposium on Socionetwork Strategies in the Market of Data, Panel discussion, 2022.
15. S. Suhendra, E. Suwondo, D. Ismoyowati, M. Matsuoka, Perancangan Sistem Pendukung Keputusan Pemilihan Lokasi Agroindustri: Studi Industri Tahu di Daerah Istimewa Yogyakarta, *agriTECH*, Vol. 42, pp. 10-22, 2022.
16. Y. Utsumi, O. Entin-Wohlman, A. Aharony, Spin selectivity through time-reversal symmetric helical junctions, *Frontiers of Quantum and Mesoscopic Thermodynamics*, Prague, Czech Republic (online), 2021.
17. A. Aharony, O. Entin-Wohlman, Y. Utsumi, Breaking Time-Reversal Symmetry and Spin Selection in chiral molecules, *Frontiers of Quantum and Mesoscopic Thermodynamics*, Prague, Czech Republic (online), 2021.
18. Y. Utsumi, O. Entin-Wohlman, A. Aharony. Spin Selectivity through Time-reversal Symmetric Helical Junctions, *International Symposium on Novel materials and quantum Technologies*, 2021.
19. K. Nakamura, K. Nozaki, K. Hayashi, A.-M. Pradipto, M. Weinert, T. Oguchi, Atomic-layer stacking dependence of the magnetocrystalline anisotropy in Fe-Co multilayer thin films at MgO(001) interface, *Journal of Magnetism and Magnetic Materials*, Vol. 537, pp.168175/1-8, 2021.
20. W. S. Ham, A. -M. Pradipto, K. Yakushiji, K. Kim, S. H. Rhim, K. Nakamura, Y. Shiota, S. Kim, T. Ono, Dzyaloshinskii–Moriya interaction in noncentrosymmetric Superlattices, *NPJ Computational Materials*, Vol. 7, pp. 129/1-7, 2021.
21. A. -M. Pradipto, K. Nakamura, Slater-Pauling-like Behavior of Spin Hall Conductivity in Pt-based Superlattices, *Journal of Mathematical and Fundamental Sciences*, Vol. 53, pp. 369-379, 2021.

<生物資源学研究科・生物資源学部>

学術論文

1. Chaudhary, A., A. Hussain, Qurat-ul-Ain Ahmad, M. Manzoor, S. A. Tahira, S. Karita, Statistical optimization of alkaline treatment of pomegranate peel waste for bioethanol production, *Biomass Conv. Bioref.* 2022. doi:10.1007/s13399-022-02345-z
2. Chaudhary, A., A. M. Akram, Qurat-Ul-Ain Ahmad, Z. Hussain, S. Zahra, Q. Minahal, S. Azhar, S. Ahmad, S. Hayat, M. A. Javed, M. S. Haider, Q. Ali, S. Karita, Optimized biotransformation of acid-treated water melon peel hydrolyzate into ethanol, *Braz. J. Biol.* vol. 83, e253009. 2021.
3. Crous, P.W., L. Lombard, M. Sandoval-Denis, K.A. Seifert, et al. Fusarium: more than a node or a foot-shaped basal cell. *Studies in Mycology*. 98, 2021.

V. 資料

- Hattori, Y., C. Nakashima, S. Kitabata, K. Naito, A. Hieno, L.V. Alvarez, K. Motohashi. Identification of the *Colletotrichum* species associated with mango diseases and a universal LAMP detection method for *C. gloeosporioides* species complex. *Plant & Fungal Res.* 4, 2–13, 2021.
- Manuel, A.V., Phan Thi Cam Tu, S. Yamamoto, N. Tsutsui, T. Yoshimatsu. Effect of simulated sudden thunderstorm flood on the early stage development of Japanese flounder *Paralichthys olivaceus*. *Aquaculture Research* 52, 6464–6471, 2021.
- Muhammad G., T. Fujimura, A. Sahidin, A. Komaru. The influence of donor and recipient oyster red and blue shell nacre interference color on *Pinctada fucata martensii* pearl quality. *Aquaculture*. 736947. 2021.
- Muhammad, G., T. Atsumi, A. Komaru. The influence of water temperature, salinity, and food availability on nacre deposition rates in shells and pearls of Japanese and hybrid pearl oysters, *Pinctada fucata* (Gould, 1850). *Aquaculture*. 528, 735512, 2020.
- Muhammad, G., T. Fujimura, A. Komaru. The effects of nacre microstructure on green and pink interference colors in *Pinctada fucata martensii* pearls. *Aquaculture*. 535, 736424, 2021.
- Nahar, N., A.O. Owino, S. K. Khan, Z. Hossain, N. Tamaki. Effects of controlled burn rice husk ash on geotechnical properties of the soil. *Journal of Agricultural Engineering*. 52, 1–7, 2021.
- Nahar, N., Z. Hossain, N. Tamaki. Optimum utilization of rice husk ash waste for ground improvement, *International Agricultural Engineering Journal*. 30, 1–10, 2021.
- Sahidin, A., G. Muhammad, Z. Hasan, M.C.W. Arief, A. Komaru, Color profile and microstructure of the nacre shell of an invasive freshwater mussel, *Sinanodonta woodiana*, at different elevations in West Java, Indonesia. *Aquaculture*, 2022 (in press).
- Sahidin, A., G. Muhammad, Z. Hasan, M.C.W. Arief, R.M. Marwoto, A. Komaru. Indonesian freshwater bivalves: a meta-analysis of endemicity, ecoregionb distributions, and conservation status. *AACL Bioflux* 14, 3750–3775, 2021.
- Sekiya, N., T. Nakajima, N. Oizumi, C. Kurosawa, N. Tibanyendela, M.A. Peter, M. Tomitaka, K.T. Natsuaki. Agronomic practices preventing local outbreaks of rice yellow mottle virus disease revealed by spatial autoregressive analysis. *Agron. Sustain. Devl.* 42, 2022 (in press).
- Tanaka, Y., M. Nakamura, K. Ueda, R. Uzuoka. Centrifuge study on Tree Vibration Effect on The Seismic Stability of A Slope with a Slip Layer. 3rd Asian Conference on Physical Modelling in Geotechnics (Asiafuge). 262–267, 2021.
- Ujat, A.H., G. Vadamalai, Y. Hattori, C. Nakashima, C.K.F. Wong, D. Zulperi. Current Classification and Diversity of *Fusarium* Species Complex, the Causal Pathogen of *Fusarium* Wilt Disease of Banana in Malaysia. *Agronomy*. 11, 1955, 2021.

国際貢献活動

- ABE イニシアティブ修士課程及びインターンシッププログラム：アフリカ大陸 54 カ国；2015 年～現在；国際協力機構（JICA）の長期研修員制度。アフリカにおける産業開発に資する日本とアフリカ各国間の人脈を形成し、日本企業がアフリカにおいて経済活動を進める際の水先案内人となる高度産業人材の育成を目指す。2021 年度は 3 名が在籍している。
- SDGs グローバルリーダー・コース：アジア，大洋州，中南米，アフリカ諸国；2021 年～現在；国際協力機構（JICA）の長期研修員制度。アジア，大洋州，中南米，アフリカ諸国の行政官等が、日本の大学院で学び学位取得を目指す長期研修プログラムで、各国が抱える SDGs の政策課題の解決に向け、政策決定のトップリーダーとなること、そして、日本の関係者とネットワークを構築・強化するなど、知日派人材の育成を目指す。2021 年度は 3 名が在籍している。
- 食料安全保障のための農学ネットワーク (Agri-Net)：アジア，大洋州，中南米，アフリカ諸国；2021 年～現在；国際協力機構（JICA）の長期研修員制度。農林水産分野における世界規模での課題である食料安全保障について、JICA と生物資源学研究科が幹事校である農学知的支援ネットワーク (JISNAS) を通じて長期研修員を受け入れ、高度な研究人材の育成ネットワークを活用し、参加大学での共通科目や共同での研修を行う。2021 年度は 1 名が在籍している。

<国際交流センター>

学術論文

1. Shoji, Shinichi. (2022). Preference for deletion vs. epenthesis in Japanese phonological adaptations: Lexical stratification and input medium. *Acta Linguistica Asiatica*, 12: 9-18.
2. 正路真一 (2022) 「外国人留学生の日本での就職意識を高める方途：日本で就業している外国人をロールモデルとした試み」『高等教育研究』第28号.

調査報告

1. 福岡昌子 (2022) 「留学生と地域の人々との盆踊を通じた国際交流と地域の国際化-アンケート調査から-」『三重大学国際交流センター紀要』第17号 (留学生センター紀要より通巻24号) 27頁～40頁.
2. 正路真一 (2022) 「コロナ禍での授業形態にかかる学生の意見調査：ハイブリッド授業, オンデマンド授業, リアルタイムでのオンライン授業」『三重大学国際交流センター紀要』第17号.

実践報告

1. 正路真一 (2022) 「日米大学生による英語と日本語の Virtual Exchange 型会話練習」『三重大学国際交流センター紀要』第17号.

学会発表

1. Shoji, Shinichi. (2022). Antecedent saliency, pronouns, and empathy in Japanese. Poster presentation at Annual Conference on Human Sentence Processing. University of California Santa Cruz, Santa Cruz, CA, USA.

6. 歴代国際交流センター長 一覧

	国際交流センター長
2005年度	亀岡孝治
2006年度	亀岡孝治
2007年度	小林英雄
2008年度	小林英雄
2009年度	松岡守
2010年度	松岡守
2011年度	朴恵淑
2012年度	朴恵淑
2013年度	堀浩樹
2014年度	堀浩樹
2015年度	堀浩樹
2016年度	堀浩樹
2017年度	堀浩樹
2018年度	堀浩樹
2019年度	吉松隆夫
2020年度	吉松隆夫
2021年度	金子聡
2022年度	金子聡



●三重大学国際交流ホームページ
(<https://www.mie-u.ac.jp/international/>)

発行/令和4(2022)年●月
国立大学法人 三重大学
問合わせ先/国際交流チーム
〒514-8507 津市栗真町屋町 1577
TEL 059-231-9924
FAX 059-231-5692
E-mail koryu@ab.mie-u.ac.jp
ホームページ <https://www.mie-u.ac.jp/international/>
印刷/伊藤印刷株式会社

